

中九州横断道路(大分おおいた～犬飼いぬかい)

第2回 説明資料

令和4年12月15日

国土交通省 九州地方整備局

目次

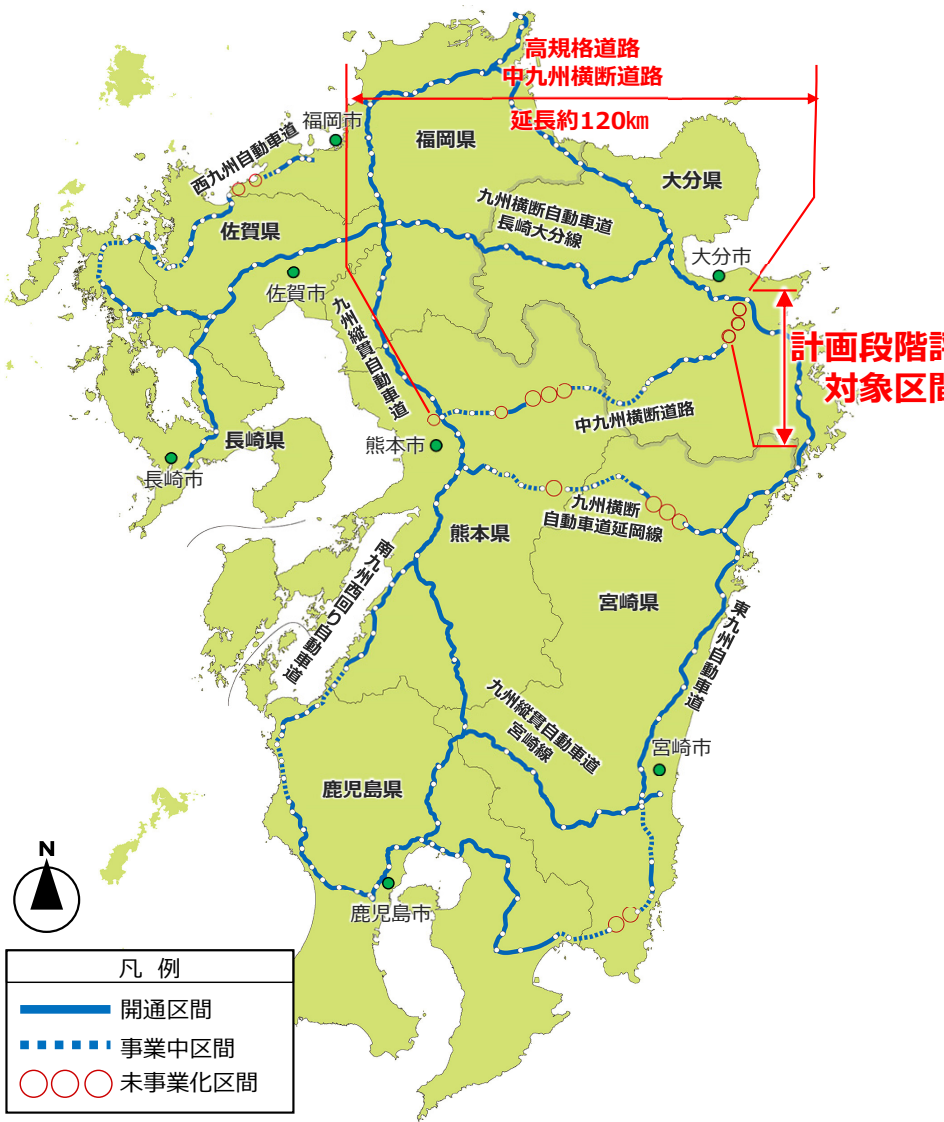
1. 前回までの審議内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2. 第1回意見聴取の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
3. 第1回意見聴取の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
4. 複数案の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
5. 第2回意見聴取方法(案)・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

1. 前回までの審議内容

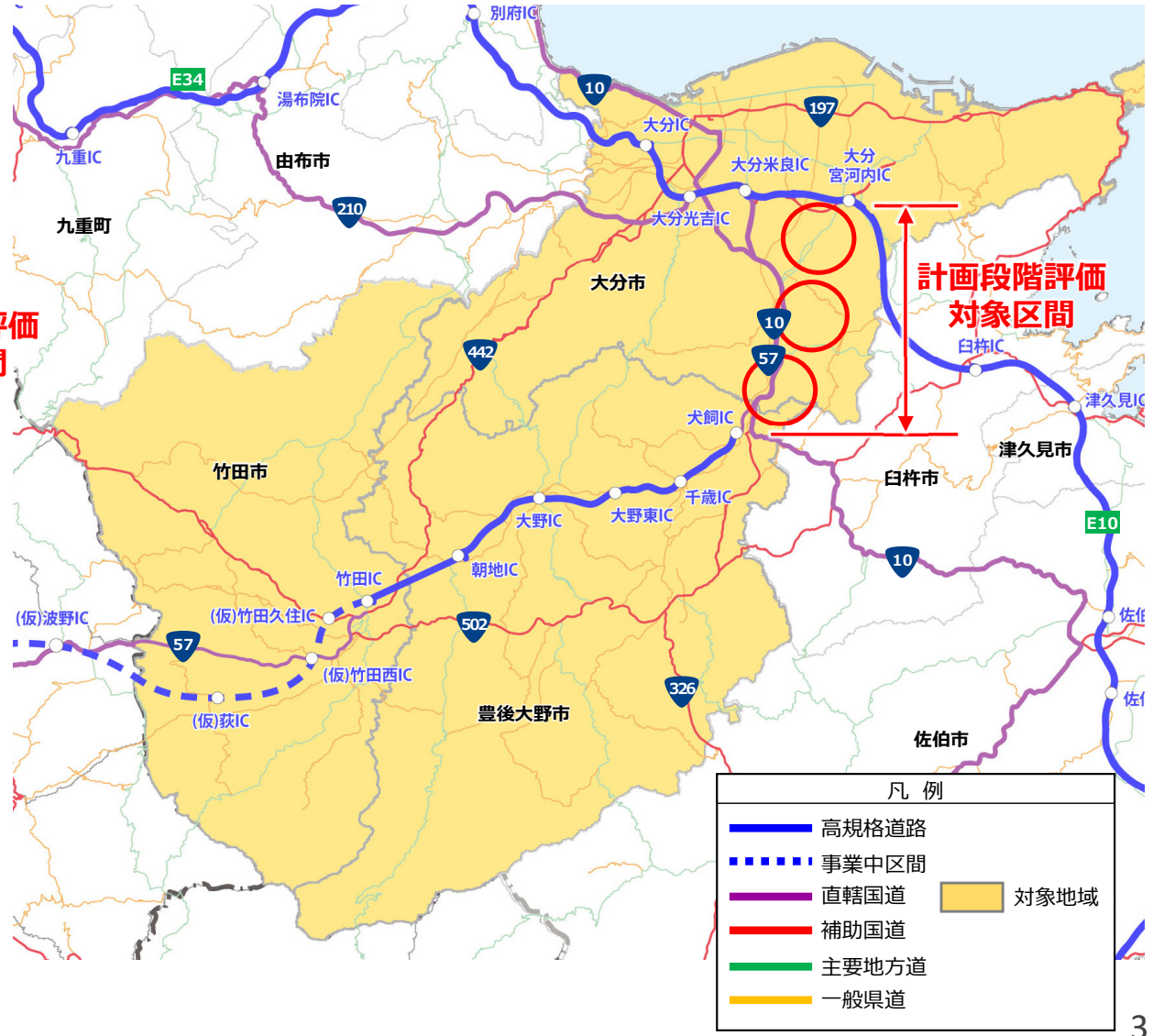
1-1. 評価対象区間〈対象区間の概要〉

- 対象区間は、大分市と熊本市を結ぶ高規格道路中九州横断道路の一部。
- 中九州横断道路は東九州自動車道と九州縦貫自動車道と一体となることで、広域的な道路ネットワークを形成。
- 対象区間は起点側の東九州自動車道との隣接区間であり、大分県内のうち唯一の未事業化区間。

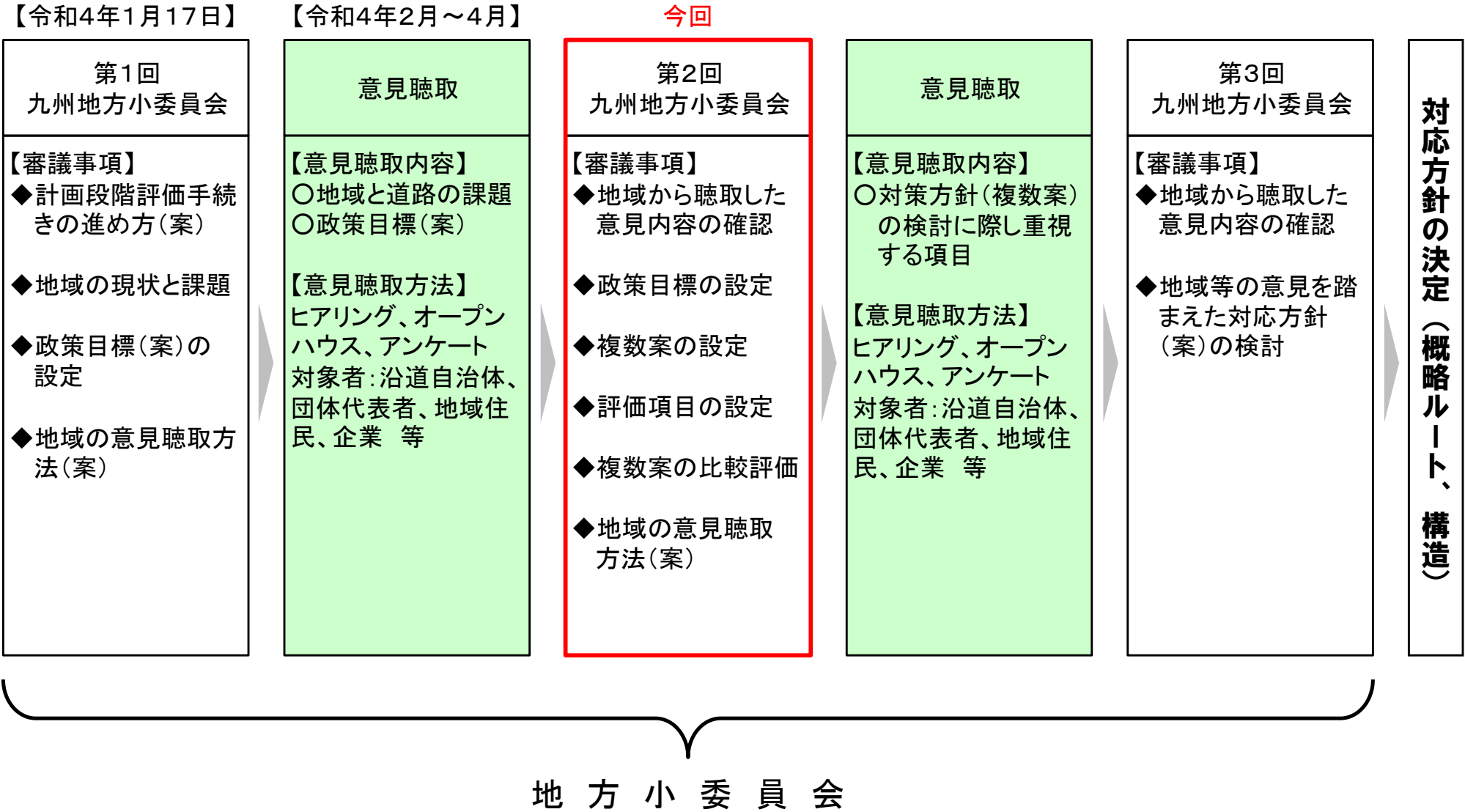
【広域図】



【路線位置図】



1-2. 計画段階評価手続きの進め方(案)



1-3. 前回審議内容〈九州地方小委員会(第1回)〉

■九州地方小委員会(1回目)の概要

○実施日

令和4年1月17日(月)

○主な議題

- ①地域の現状と課題
- ②政策目標(案)の設定
- ③意見聴取方法について

■九州地方小委員会(1回目)での審議結果

○地域や道路の課題を踏まえた政策目標(案)や、意見聴取の内容・方法については、妥当と判断する。

■九州地方小委員会(1回目)での主な指摘事項と対応方法

指摘事項	対応状況
・今後の意見聴取については、団体・企業等の意見が概略計画に適切に反映できるよう検討して頂くことと、広域的な道路利用者の意見も把握できるように、意見聴取方法を検討して頂きたい。	・相対的に配布数が少ない団体・企業の意見が薄まらないよう、団体・企業と地域住民とで分けて意見聴取結果の集計・分析を実施。
	・広域的な道路利用者の意見把握については、地域課題整理の中で特に産業面において熊本との繋がりが確認できたので、企業アンケート調査において熊本県立地企業も調査対象に追加。 【修正前】大分市、豊後大野市、竹田市の立地企業を対象 ↓ 【修正後】中九州横断道路利用企業調査※等を参考に、熊本県立地企業も調査対象に追加

※中九州横断道路利用企業調査: 犬飼IC付近にて通過車両の情報(企業名、車籍地)の読取調査を実施

1-4. 政策目標(案)の設定

【産業】

【防災】

【暮らし】

【医療】

【観光】

地域・道路交通の現状と課題

①産業・物流

- 国道10号・57号は、港湾施設、工業団地・青果センター等への製造・物流拠点への輸送を担う主要路線。
- 大分港(大在地区)等において「九州の東の玄関口」としての拠点化整備が進むとともに、大分流通業務団地・野津東部工業用地における企業誘致や新たな工業団地の造成に関する検討が進んでいる。
- 大分臨海部～豊後大野・竹田・熊本方面の物流において、アクセス性、速達性、定時性の低下が発生。

②防災

- 国道10号・57号は南海トラフ地震津波発生時には、九州東進作戦の広域移動ルートとしての役割を有する。
- 国道10号・57号では、路面冠水等による通行止めが発生。
- 災害時でも救援・物資輸送を果たす信頼性の高いネットワークの構築が必要。

③渋滞・事故

- 大分市中心部・臨海部～豊後大野・竹田・熊本方面間では、国道10号・57号が唯一の幹線道路。
- 国道10号は主要渋滞箇所が連続し、旅行速度の低下が発生。
- 当該区間の事故率は県内直轄国道平均に比べて高く、渋滞に起因すると想定される追突事故が多く発生。

④医療

- 豊後大野市・竹田市の医療機能は大分市に依存。
- 大分市内でも三次医療施設30分圏外の地域が存在。
- 救急搬送時の速達性、走行性の低下により、傷病者への影響が懸念。

⑤観光

- 阿蘇くじゅう観光圏や祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク等では、道路整備を活かして観光誘致の拡大に努めている。
- 大分・別府方面～豊後大野・竹田方面間を接続する幹線道路ネットワークが未形成で観光振興に支障。

道路による要因

- 産業・物流拠点が集積する地域にアクセスする幹線道路が不十分。
- 熊本方面から大分市への幹線道路は、国道10号・57号のみで自専道ネットワークのミッシングリンク区間である。

- 南海トラフ地震津波発生時において、熊本方面から県南方面への広域移動ルートが脆弱。
- 現道は洪水浸水想定区域内に位置する。
- 熊本方面から大分市への幹線道路は国道10号・57号のみで代替路がない。

- 国道10号大分～犬飼間は、交差点が連坦し、交通の錯綜が著しい。
- 国道10号等では、生活交通と物流交通が混在。
- 渋滞、信号交差点等による急ブレーキ・追突事故が発生。

- 救急搬送・通院時の経路で渋滞が発生し、豊後大野市・竹田市・大分市南部から救急医療施設への速達性が低い。

- 大分・別府方面から豊後大野・竹田方面間の自専道ネットワークがミッシングリンクとなっており、観光施設と高規格道路を結ぶ幹線道路ネットワークが脆弱。

政策目標(案)

①速達性・定時性・アクセス性の向上による産業活動の支援

②災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの構築

③速達性・定時性・安全性・走行性の確保による生活利便性の向上

④速達性・走行性の向上による医療活動の支援

⑤広域周遊道路ネットワークの確保による観光振興の支援

2. 第1回意見聴取の概要

2-1. 第1回意見聴取の概要

■意見聴取期間

令和4年2月24日(木)～令和4年4月30日(土)

■意見聴取の実施状況

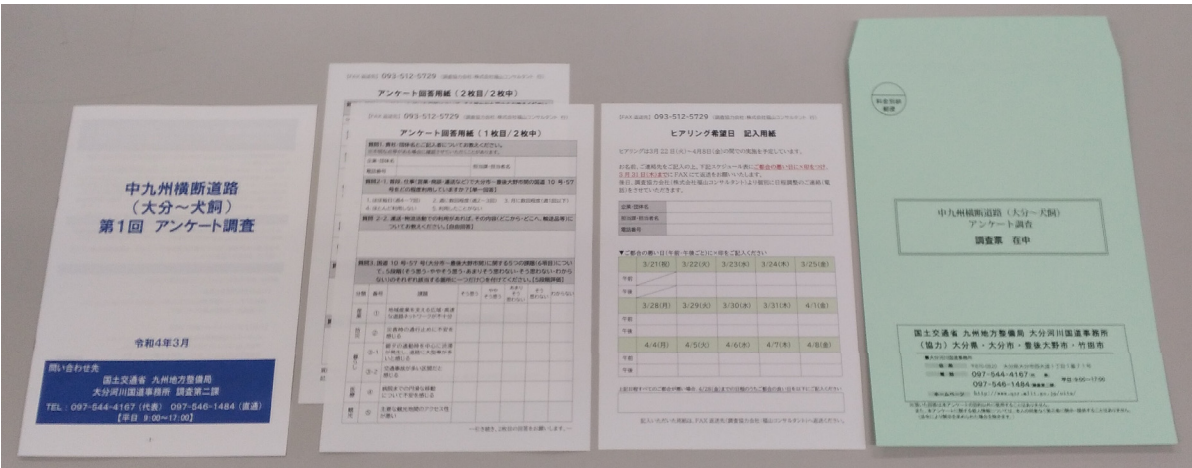
対象	意見聴取方法	実施期間	対象の詳細	回収状況		
自治体	アンケート ヒアリング	令和4年2月25日(金) ～令和4年3月下旬	大分県、大分市、豊後大野市、竹田市	4自治体		
団体		令和4年3月中旬 ～令和4年4月30日(土)	バス協会、消防本部、農業協同組合、漁業協同組合、 警察署、観光協会、商工会議所 等	30団体	全174票	
企業			沿道 自治体※	製造業、運輸・郵便業、卸売・小売業、 宿泊・飲食サービス業、医療・福祉 等		132社
			熊本県	製造業、運輸・郵便業 等		12社
地域住民 ・ 広域的な 道路利用者	アンケート	令和4年3月下旬 ～令和4年4月30日(土)	計 約7,300戸 大分市:約6,300戸、豊後大野市:約600戸、 竹田市:約400戸	3,511票 はがき3,278票 WEB233票	全4,443票	
	オープン ハウス	令和4年4月12日(火) 令和4年4月15日(金) 令和4年4月17日(日) 令和4年4月19日(火) 令和4年4月22日(金)	計 5箇所 【平日(4箇所)】大分市役所、大分市役所大南支所、 豊後大野市役所、竹田市役所 【休日(1箇所)】パークプレイス大分	581票 (うちWEB :47票)		
	留置き	令和4年2月25日(金) ～令和4年4月30日(土)	計 7箇所 道の駅あさじ、道の駅原尻の滝、道の駅おおの、道の 駅みえ、道の駅きよかわ、道の駅竹田、道の駅すごう	74票		
	HP・市報等	令和4年2月24日(木) ～令和4年4月30日(土)	大分河川国道事務所HP、自治体HP、市報 等	277票 (WEB)		

※沿道自治体:大分市、豊後大野市、竹田市

2-2. 第1回意見聴取の実施状況 ~自治体・団体・企業アンケート/ヒアリング~

■企業アンケート調査票

【説明資料】 【回答用紙】 【ヒアリング希望日記入用紙】 【送付用封筒】



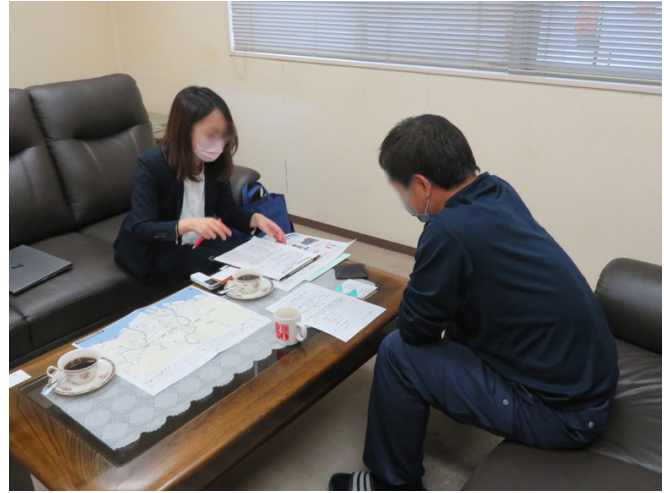
対象	自治体	団体	企業	
			沿道自治体※	熊本県
配布数	4自治体	53団体	429社	60社
意見聴取数	4自治体	30団体	132社	12社
			全174票	
実施期間	令和4年2月25日(金)~3月下旬		令和4年3月下旬~令和4年4月30日(土)	

※沿道自治体:大分市、豊後大野市、竹田市

■ヒアリング実施状況

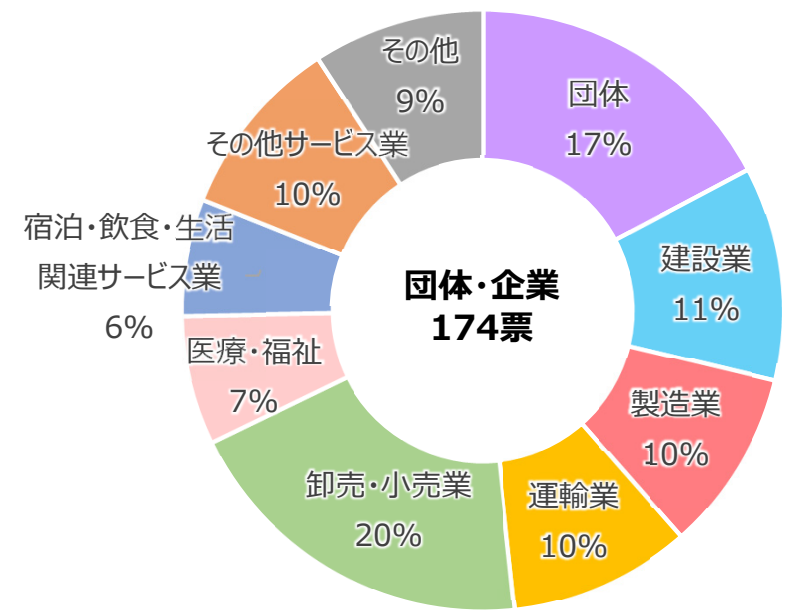


【団体(農業協同組合)大分市】



【企業(運輸業):大分市】

■意見聴取団体・企業等の内訳

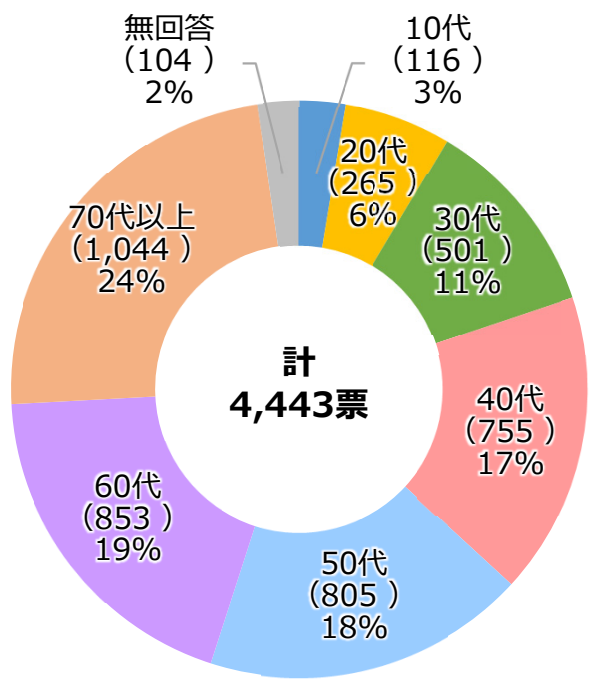


2-3. 第1回意見聴取の実施状況 ～住民アンケート・オープンハウス・留置き・その他～

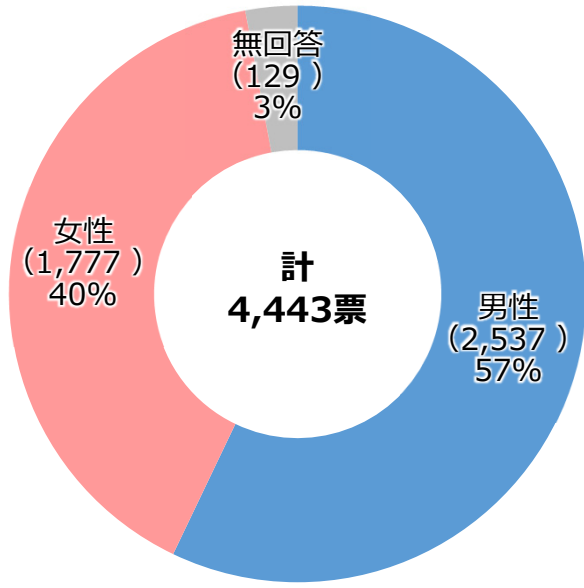
○回収票数は4,443票で、幅広い年代・性別の方から回答を頂いている。
 ○居住地は、対象地域である大分市・豊後大野市・竹田市で98%を占めているほか、別府市、臼杵市等の県内その他市町、福岡県、熊本県などから回答も得られた。

■回答者の内訳

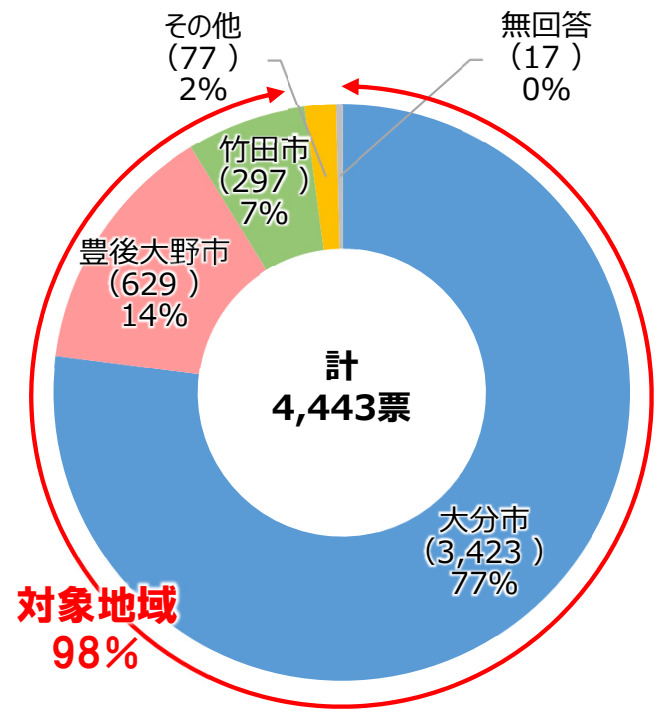
【年代】



【性別】



【居住地】



<参考> その他居住地

別府市	16
臼杵市	10
その他大分県	29
その他九州地方	11
その他	11

2-3. 第1回意見聴取の実施状況 ~住民アンケート~

■住民アンケート実施内容

- ・あなたご自身のことに関する設問は、記入または該当する番号に○をつけてください。
- ・単一回答の設問は、あてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。
- ・5段階評価の設問は、各課題の該当する箇所に1つだけ○をつけてください。
- ・自由回答の設問は、具体的な内容を回答してください。

国道10号・57号(大分~豊後大野)の現状について、地域にお住いの皆様のご意見を広く伺うことを目的としています。そのため、このはがきに入力されたことは、この目的以外には使用いたしません。
回答いただいた個人に関する情報は、本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。
 (法令により開示を求められた場合を除きます。)

あなたご自身のことについて教えてください

住所 ①大分市 2.豊後大野市 3.竹田市
 4.その他 []都道府県 []市区町村

性別 1.男性 ②女性

年齢 1.10代 2.20代 ③30代 4.40代
 5.50代 6.60代 7.70代以上

問1 国道10号・57号の利用頻度について

普段、大分市~豊後大野市間の国道10号・57号をどの程度利用していますか？【単一回答】

① ほぼ毎日(週4~7回)
 2 週に数回程度(週2~3回)
 3 月に数回程度(週1回以下)
 4 ほとんど利用しない
 5 利用したことがない

問2 国道10号・57号の移動手段について

大分市~豊後大野市間の国道10号・57号を通行する際の、主な移動手段は何ですか？【単一回答】

① 自動車
 2 公共交通(バス、タクシー)
 3 バイク
 4 自転車
 5 徒歩

問3 国道10号・57号の利用目的について

大分市~豊後大野市間の国道10号・57号を通行する際の目的として、最も多い目的は何ですか？【単一回答】

① 通勤・通学
 2 仕事(営業・商談・運送など)
 3 私用(買物・食事・通院など)
 4 その他 []

問4-1 国道10号・57号(大分市~豊後大野市間)の課題について

国道10号・57号(大分市~豊後大野市間)に関する5つの課題(6項目)について、5段階のそれぞれ該当する箇所に1つだけ○をつけてください。【5段階評価】

分類	番号	課題	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
産業	①	地域産業を支える広域・高速な道路ネットワークが不十分	○				
防災	②	災害時の通行止めに不安を感じる		○			
暮らし	③-1	朝夕の通勤時を中心に渋滞が発生し、道路に大型車が多いと感じる				○	
	③-2	交通事故が多い区間だと感じる				○	
医療	④	病院までの円滑な移動について不安を感じる					○
観光	⑤	主要な観光地間のアクセス性が悪い					○

問4-2 国道10号・57号(大分市~豊後大野市間)の課題について(理由)

「問4-1」にお答えいただいた回答について、そう思われた理由を教えてください。【自由回答】

番号	理由
①	
②	
③-1	●●時によく利用するが、いつも渋滞している。
③-2	
④	
⑤	

問4-3 国道10号・57号(大分市~豊後大野市間)の課題について(理由)

「問4-1」に示した課題以外で、あなたが問題だと思うことがあれば具体的にお書きください。【自由回答】

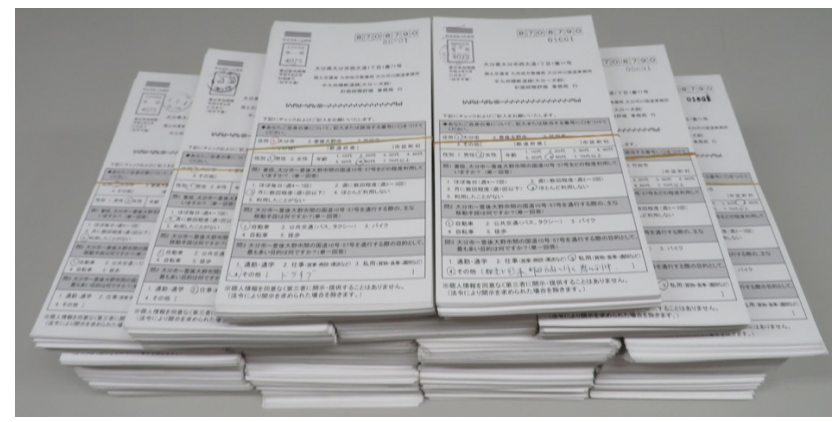
日常的に●●で困ることがあるので、●●することが必要だと思う。

問5 その他について

その他ご意見がありましたらお聞かせください。【自由回答】

■住民アンケート調査票・回収状況

【調査票】 【返信用はがき4枚】 【送付用封筒】



対象	地域住民
配布数	大分市:約6,300戸、豊後大野市:約600戸、竹田市:約400戸 (合計:約7,300戸)
意見聴取数	3,511票(うち、WEB:233票)
実施期間	令和4年3月下旬~令和4年4月30日(土)

2-3. 第1回意見聴取の実施状況 ~オープンハウス~

■オープンハウス実施状況

<平日>



【令和4年4月12日(火)竹田市役所】



【令和4年4月15日(金)豊後大野市役所】



【令和4年4月19日(火)大分市役所大南支所】



【令和4年4月22日(金)大分市役所】

対象	地域住民、道路利用者
会場	<ul style="list-style-type: none"> ・大分市役所 ・大分市役所大南支所 ・豊後大野市役所 ・竹田市役所 ・パークプレイス大分
意見聴取数	581票(うち、WEB:47票)
実施期間	【平日】: 4日間 令和4年4月12日(火)、15日(金)、19日(火)、22日(金) 【休日】: 1日間 令和4年4月17日(日)

<休日>



【令和4年4月17日(日)パークプレイス大分】

2-3. 第1回意見聴取の実施状況 ~留置き・その他~

■ 留置き実施状況

<留置き>



【道の駅あさじ】



【道の駅原尻の滝】



【道の駅おおの】



【道の駅みえ】



【道の駅きよかわ】



【道の駅竹田】



【道の駅すごう】

対象	地域住民、道路利用者
留置き設置箇所	道の駅あさじ、道の駅原尻の滝、道の駅おおの、道の駅みえ、道の駅きよかわ、道の駅竹田、道の駅すごう
HP、施設掲示等	大分河川国道事務所HP、自治体HP、自治体広報誌 等
意見聴取数	351票(うち、留置き:74票、WEB:277票)
実施期間	令和4年2月25日(金)～令和4年4月30日(土)

<留置きポスター>

中九州横断道路(大分～犬飼) 道路計画に関する ご意見をお聞かせください

中九州横断道路(大分～犬飼)に関するアンケートを実施しています。備え付けの回答用紙にご記入後、回収BOXへ投函をお願いします。

回答締切
令和4年 4月30日(土)

Web回答も受付中!

インターネット接続環境のあるスマートフォンまたはパソコンより、右記A、Bいずれかの方法でアンケートサイトにアクセスし、**令和4年4月30日(土)**までに、回答をお願いします。

A 下記URLをアドレスバーに入力
<https://questant.jp/oita-inukai-w>

B QRコードからアクセス→

国土交通省 九州地方整備局 大分河川国道事務所
お問い合わせ先: 大分河川国道事務所 調査第二課
所在地 〒870-0820 大分県大分市西大滝1丁目1番71号
TEL 097-544-4167 (代表) 097-546-1484 (調査第二課) 平日9:00～17:00
URL <http://www.qsr.mlit.go.jp/oita/>

2-4. 第1回意見聴取の実施状況 ～広報～

- ①ホームページ: 国土交通省大分河川国道事務所、各自治体のホームページに意見聴取のページを開設
- ②広報ポスター・チラシ: 県庁、市役所、道の駅等にポスターを掲示、広報チラシを配布
- ③広報誌: 自治体広報誌に掲載

①ホームページ

○大分河川国道事務所

記者発表情報

2021年度

- ▶ [R04/03/31] 令和4年度の災害特効力策が決定しました！
- ▶ [R04/03/23] 大分市内の災害現場に向けて実施した社会実験の結果を報告します
- ▶ [R04/02/24] 中九州横断道路(大分～犬飼)の道路計画を進めるにあたり、地域の皆様のご意見をお聞かせください
- ▶ [R04/02/07] 中九州横断道路(国道10号山手文庫点～安佐上IC間)の工事は毎年複数区間進行のお知らせ
- ▶ [R04/02/07] 令和3年度Construction大分セミナーを開催します

国土交通省 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

令和4年2月24日
九州地方整備局
大分河川国道事務所

中九州横断道路(大分～犬飼)の道路計画を進めるにあたり地域の皆様のご意見をお聞かせください

「社会資本整備審議会 道路分科会 九州地方小委員会」において、計画段階評価の手続きを進めております「中九州横断道路(大分～犬飼)」に關し、道路整備の計画検討を進めるにあたり、地域の皆様が目頃から感じている「道路交通や地域の課題」等についてご意見をお聞かせください。設計段階評価とは、新規事業採択の前段階において、政策目標を明確化した上で、複数の対策案の比較評価を行うものです。

アンケート調査について(住民、一般道路利用者の方を対象)

○実施期間: 下記のとおり

アンケート調査対象者	実施・配布方法
① 沿道住民の方 令和4年3月22日(火)から 令和4年4月30日(土)	・郵送により配布(無作為抽出) 大分市、豊後大野市、竹田市 ※郵送時に掲載のQRコードからアンケートサイトにアクセスして回答することもできます。
② その他の地域にお住まいの道路利用者 令和4年2月6日(金)から 令和4年4月30日(土)	・道の駅「あさむすび」「原尻の滝」「おのおの」「みえ」「きよかわ」「竹田」「すごう」で配布・実施 ※施設にポスターを掲示しています。QRコードからアンケートサイトにアクセスして回答することもできます。

アンケート・ヒアリング調査について(自治体・団体・企業を対象)

○実施期間: 令和4年2月5日(金)から 令和4年4月23日(木)

○調査対象者: 大分県及び大分県内の自治体、中九州横断道路(大分～犬飼)の利用が考えられる団体、企業等

○実施方法: アンケート方式、対面方式(WEBでの回答も可)

オープンハウスについて(自治体・団体・企業を対象)

○実施期間: 令和4年4月12日(火)から 令和4年4月22日(金)
(平日)9時～16時、(休日)10時～16時

○場 考: 荒天が予想される場合は延期とし、前日の17時までに大分河川国道事務所のホームページでお知らせします。

実施場所	実施日
大分市役所本庁舎	令和4年4月22日(金)
大分市役所大南支所	令和4年4月19日(火)
豊後大野市役所	令和4年4月15日(金)
竹田市役所	令和4年4月12日(火)
パークプレイス大分	令和4年4月17日(日)

【新型コロナウイルス感染予防に関する取組】
会場では、感染拡大防止のため、調査員のマスク着用、十分な消毒、3密の回避に取り組みます。

②広報ポスター・チラシ

○大分県HP

中九州横断道路(大分～犬飼)の道路計画を進めるにあたり地域の皆様のご意見をお聞かせください

アンケート調査について

実施期間: 令和4年2月5日(金)～令和4年4月23日(木)
※下記のQRコードからアンケートHPへアクセスできます。

オープンハウスについて

大分市役所、パークプレイス大分などで、オープンハウスの(1)から展示・アンケート設置が実施されます。

お問い合わせ先: 国土交通省九州地方整備局 大分河川国道事務所
(TEL) 電話: 097-544-4167 (FAX) 電話: 097-546-1484
URL: http://www.gpr.mlit.go.jp/otw/

中九州横断道路(大分～犬飼)道路計画に関するご意見をお聞かせください

誰でも参加・回答OK!

1 パネル展示・アンケート調査を実施します

中九州横断道路は大分市を起点として豊後大野市・竹田市まで延伸し、熊本に至る延長約120kmの道路です。本調査は、中九州横断道路のうち大分～犬飼間における道路整備の計画検討を進めるにあたり、地域の皆様から目頃から感じている「道路交通や地域の課題」等についてご意見を頂くことを目的としています。本調査は「道路整備の進捗の課題」は、道路整備等と合わせてロードサイン等検討する際の参考とします。

4月12日(日) 9:00～16:00 竹田市役所
4月15日(水) 9:00～16:00 豊後大野市役所
4月17日(金) 10:00～16:00 パークプレイス大分
4月19日(日) 9:00～16:00 大分市役所 大南支所
4月22日(水) 9:00～16:00 大分市役所 本庁舎

2 Web回答も受け付けています

インターネット接続環境のあるスマートフォンまたはパソコンより、右記A、Bいずれかの方法でアンケートサイトにアクセスし、回答をお願いします。どなたでもご回答いただけます。

3 施設でのアンケート配布・回収を行っています

下記の施設に前査票と回収ボックスを設置しています。どなたでもご回答いただけます。

設置施設: 道の駅あさむすび、道の駅原尻の滝、道の駅おのおの、道の駅みえ、道の駅きよかわ、道の駅竹田、道の駅すごう

お問い合わせ先: 大分河川国道事務所 調査第二課
所在地: 〒870-0820 大分県大分市南大津1丁目1番71号
TEL 097-544-4167 (代表) 097-546-1484 (調査第二課) 平日9:00～17:00
URL http://www.gpr.mlit.go.jp/otw/

③広報誌

○市報おおいた(4月号)

中九州横断道路(大分～犬飼)の道路計画についてご意見をお聞かせください

◎世帯へのアンケート配布

- 対象: 無作為に抽出した人に郵送で配布
- 回答期限: 4月30日(土)
- ※ウェブでも回答可

◎パネル展示・アンケート調査

日時	場所
4月17日(日) 午前10時～午後4時	パークプレイス大分2階 ガーデンウォーク
19日(火) 午前9時～午後4時	大南支所
22日(金) 午前9時～午後4時	本庁舎1階 エレベーターホール

図 都市計画課 ☎537-5967

○広報たけた(4月号)

中九州横断道路(大分～犬飼)の道路計画に関する意見募集

道路整備の計画検討を進めるにあたり、地域の皆様のご意見を伺います。ご協力をお願いします。

①世帯へのアンケート配布

市内居住者から無作為に抽出した方を対象に郵送配布をしています。

回答期限 4月30日(土)

※WEBではどなたでも回答できますので、右記2次元バーコードよりアクセスしてください。

②オープンハウス(パネル展示・アンケート調査)

図 ①(4月12日(火) 午前9時～午後4時
竹田市役所 1階
(2)4月17日(日) 午前10時～午後4時
パークプレイス大分2階ガーデンウォーク

③アンケート調査

設置場所 道の駅たけた 道の駅すごう
設置期間 4月30日(土)まで
国土交通省大分河川国道事務所調査第二課
☎097-544-4167

3. 第1回意見聴取の結果

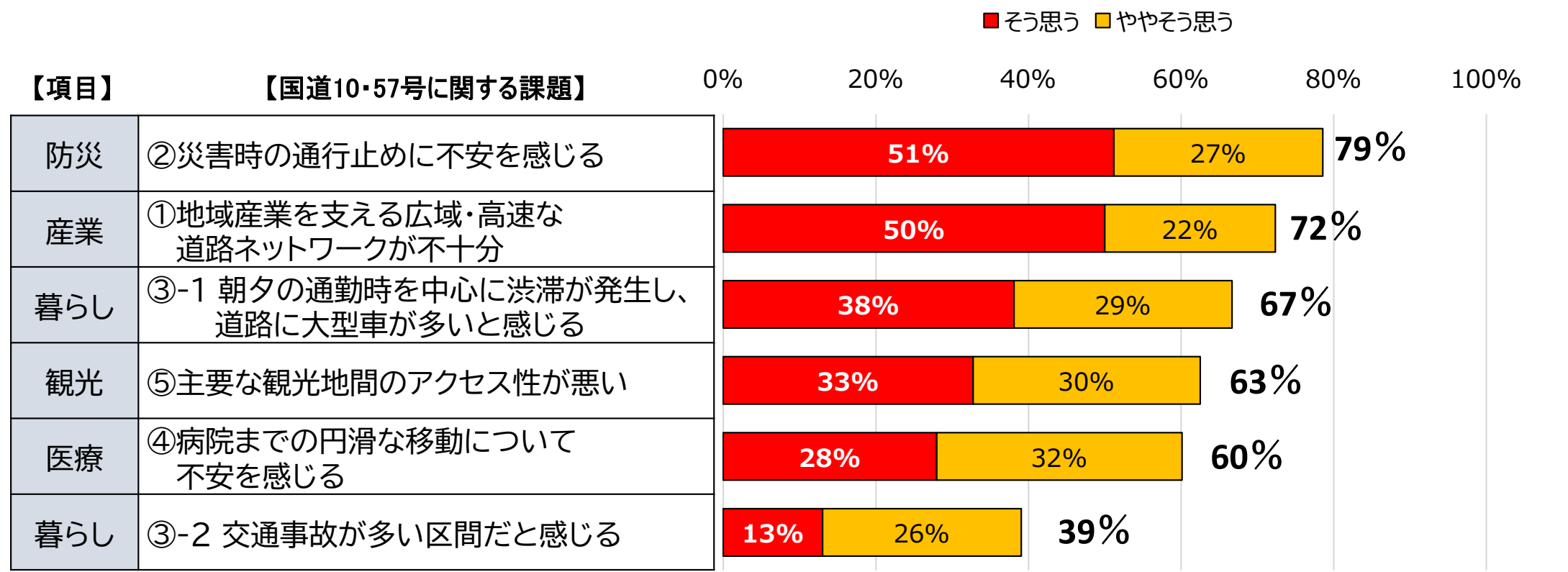
3-1. 第1回意見聴取の結果<地域の現状と課題>

■ 団体・企業(アンケート・ヒアリング)

・「③-2.交通事故が多い区間だと感じる」を除く全ての項目について6割以上が『そう思う』『ややそう思う』と回答。
 ・特に「②災害時の通行止めに不安を感じる」「①地域産業を支える広域・高速な道路ネットワークが不十分」について課題意識が高く、7割以上の団体・企業が『そう思う』『ややそう思う』と回答。

【質問】国道10号・57号(大分市～豊後大野市間)に関する5つの課題(6項目)について、5段階のそれぞれ該当する箇所の一つだけ○を付けてください。【5段階評価】

【回答】団体・企業(アンケート・ヒアリング):174票



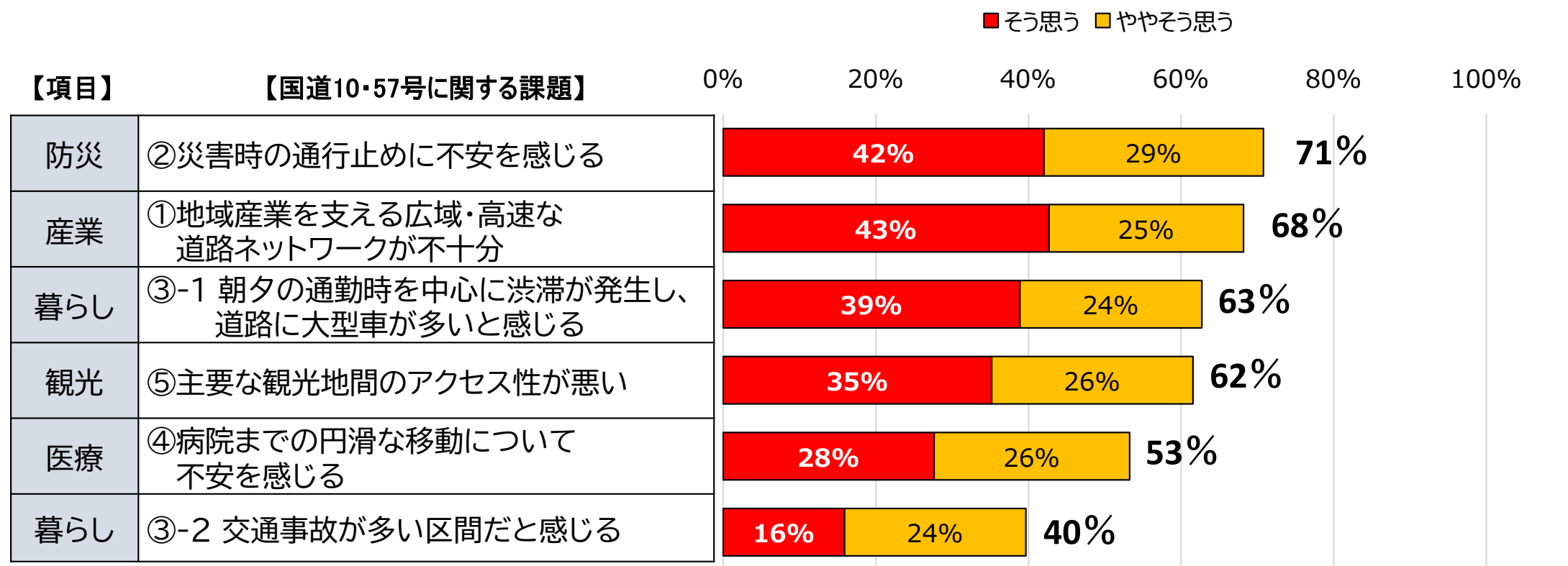
3-2. 第1回意見聴取の結果<地域の現状と課題>

■地域住民(住民アンケート・オープンハウス・留置き・その他)

・「③-2.交通事故が多い区間だと感じる」を除く全ての項目について半数以上が『そう思う』『ややそう思う』と回答。
 ・特に「②災害時の通行止めに不安を感じる」「①地域産業を支える広域・高速な道路ネットワークが不十分」について課題意識が高く、約7割が『そう思う』『ややそう思う』と回答。

【質問】国道10号・57号(大分市～豊後大野市間)に関する5つの課題(6項目)について、5段階のそれぞれ該当する箇所の一つだけ○を付けてください。【5段階評価】

【回答】地域住民(住民アンケート・オープンハウス・留置き・その他):4,443票



※小数点以下の処理により合計値と合わない場合がある(N=4,443)

3-3. 第1回意見聴取の結果＜その他の課題に対する意見＞

■その他の課題・自由意見

- ・その他の課題については、「高速ネットワークの不足」、「道路構造への不満」、「歩行者・自転車利用空間の安全性」等の意見が寄せられた。
- ・自由意見については、早期整備や整備による期待の意見が寄せられる中で、ルート選定や中間IC設置に関する意見や、少数ではあるが環境面への配慮に関する意見も寄せられた。

【質問】5つの課題以外で、あなたが問題だと思うことがあれば具体的にお書きください。(意見数 759件)

- 国道10号、57号は九州の東西を結ぶ重要な路線であり、産業、観光を振興させるには早急な整備が必要である。
- 熊本～大分間は積雪による通行止め、霧による影響が多く、代替路としての中九州横断道路の整備は意味がある。
- 中九州横断道路と東九州自動車道が接続していないため、高速道路網が形成されていない。
- 利便性が向上することで新規・継続居住が増えるといった過疎化への対策としても、高規格道路のネットワークは必要。
- 歩道が狭い場所もあり、歩行者だけでなく自転車も危険だと感じる。

【質問】その他ご意見がありましたらお聞かせください。(意見数 780件)

- 大分(大在埠頭、佐賀関)と熊本、宮崎の物流を考えると道路整備は必要。
- 大分市内から中九州道へのアクセス道路の一つである県道38号は災害による道路寸断が考えられることから、宮河内方面と接続することで応援、受援時における利便性が向上する。
- 九州の道路ネットワーク整備の早期実現が重要。
- 企業活動的には宮河内ICへつながり、大在(大分港)へ接続されたほうが佐賀関への利便性もよくなり、大分の発展的にはメリットが大きいと考える。
- 大分～犬飼間はかなり距離があるので、利便性を高めるため、途中地点でもアクセスできるようにしてほしい。
- 便利だけど自然とも共生できるような環境に配慮した道路がいい。

■: 団体・企業ヒアリング □: 住民アンケート・オープンハウス・留置き・その他

3-4. 第1回意見聴取の結果＜自治体への意見聴取結果＞

■自治体

- ・県・沿線自治体からは、物流効率化、災害時の通行止め、観光地へのアクセス性等に関する意見が寄せられた。
- ・また各自治体から、宮河内方面（臨海部東部、大在地区等）へのアクセスに関する課題や重要性について意見が寄せられた。

（主な意見）

自治体	主な意見
大分県	<ul style="list-style-type: none"> ・大分港大在地区では新たなRORO船ターミナルなどの物流拠点整備と併せ、ポートセールスによる企業誘致など「九州の東の玄関口の拠点化」を進めており、大分県版地方創生を加速するためには、ミッシングリンクである「大分～犬飼」を整備し、高速道路と一体となった広域道路ネットワークを早期に構築することが必要不可欠である。大分港大在地区は物流の拠点であり、今後の物流戦略を推進するためにも大分宮河内ICとの接続が重要。 ・国道10号・国道57号は広域防災拠点と熊本県を結ぶ重要な緊急輸送道路であるが、これまでも豪雨災害時に通行止めがたびたび発生するなど、救助・救援活動に支障が生じた。そのため、南海トラフ地震等の大規模災害時の救助・救援活動のためにも、災害に強いネットワークの形成が喫緊の課題である。
大分市	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物物流の中継基地である大在の青果センターへの輸送において、定時性や品質保持のため高規格道路による円滑化が望まれる。 ・本市の優位性を生かし、更なる商工業振興を図るため、RORO船ターミナルの整備が進む大分港大在地区や大分流通業務団地、その他多数の進出企業等が立地する東部地域のアクセス性の向上が必要。 ・大分市臨海部から南部方面へと向かう主要路線が国道10号しかないため、昼夜を通して産業用の交通と生活用の交通が常に混在しており、混雑も見られ、災害時に通行止めとなった場合には迂回路の確保も難しいと考えられる。 ・産業用の大型トラック等の通行が多いため、重大な交通事故発生のリスクが高く、安全性の向上が必要であると考えます。
豊後大野市	<ul style="list-style-type: none"> ・物流拠点である臨海工業地帯及び大分港へは一般地方道経由のアクセスとなっており渋滞等によりスムーズな物流が行われていない。 ・国道10号においては大分市上戸次の道路冠水が記憶に新しく、災害時には大分市方面からの物資の受入が出来なくなる、帰宅困難者が発生する等の懸念がある。 ・市民が大分市内の医療機関への受診傾向が高いため、道路整備は必要と感じる。また、災害が発生しDMATが災害支援に出動する際、道路冠水による通行止めにより活動に支障をきたす。 ・本市はジオパーク・エコパークといった自然を生かした観光資源に加え、サウナのまちとして観光振興に力を入れている。観光客は車で本市に来て頂く場合が多いが、大分市から規格の高い道路が繋がっていないことが観光客が増えない原因の一つであると考えている。
竹田市	<ul style="list-style-type: none"> ・大在地区にコンテナ基地があるが、狭い道（県道38号）を利用せざるを得ない状況。 ・南海トラフ発生時は沿岸部の道路は使えなくなると想定すると、エネルギー、物資の輸送の面で中九州横断道路は重要視されるべき。 ・令和3年10月に豊後大野市内の病院の産科が廃止され、豊肥地区には産科がなくなった。ほとんどが大分市内の病院へ行っている。産科に限らず病院へのアクセスがよくなると良い。 ・県外の観光客から「早く東九州道と接続すると便利で良いのだが」という声は多く聞く。また、四国からフェリーで大分へ、さらに中九州横断道路を利用して熊本へという流れができるとかなり魅力的。

4. 複数案の設定

4-1. 政策目標の設定＜政策目標(案)の検証＞

■意見聴取結果による政策目標(案)の検証

○地域の課題に対し、『そう思う』、『ややそう思う』の回答が5割を超える「産業」「防災」「暮らし(渋滞)」「医療」「観光」については、設定した政策目標は妥当であると確認。

【政策目標】 速達性・定時性・アクセス性の向上による産業活動の支援

(課題① : 地域産業を支える広域・高速な道路ネットワークが不十分)
 について約7割が『そう思う』、『ややそう思う』と回答

【政策目標】 災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの構築

(課題② : 災害時の通行止めによる不安を感じる)
 について約7割が『そう思う』、『ややそう思う』と回答

【政策目標】 速達性・定時性・安全性・走行性の確保による生活利便性の向上

(課題③-1 : 朝夕の通勤時を中心に渋滞が発生し、道路に大型車が多いと感じる)
 について約6割が『そう思う』、『ややそう思う』と回答

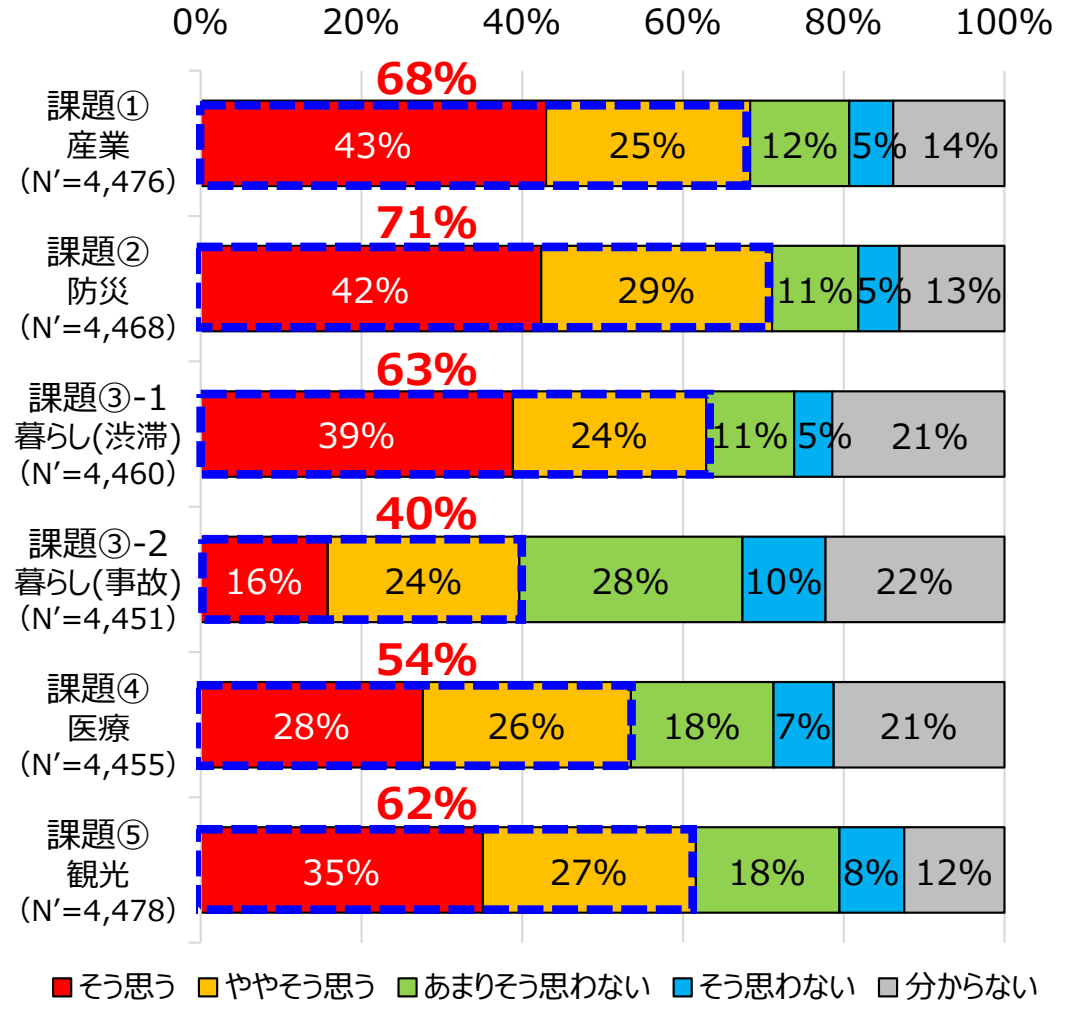
(課題③-2 : 交通事故が多い区間だと感じる)
 について約4割が『そう思う』、『ややそう思う』と回答

【政策目標】 速達性・走行性の向上による医療活動の支援

(課題④ : 病院までの円滑な移動について不安を感じる)
 について約5割が『そう思う』、『ややそう思う』と回答

【政策目標】 広域周遊道路ネットワークの確保による観光振興の支援

(課題⑤ : 主要な観光地間のアクセス性が悪い)
 について約6割が『そう思う』、『ややそう思う』と回答



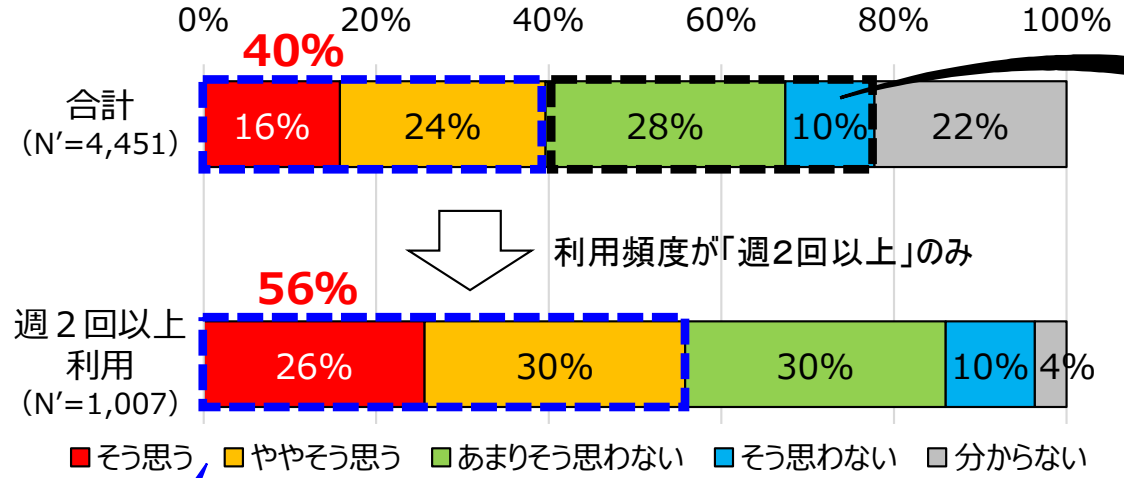
※小数点以下の処理により合計値と合わない場合がある (N=4,617 N' = 無回答を除く) 21

4-1. 政策目標の設定<政策目標(案)の検証>

■意見聴取結果、現況データによる政策目標(案)の検証

- 「暮らし(事故)」については、他の課題に比べ『そう思う』『ややそう思う』の割合が低い。
『そう思わない』『あまりそう思わない』と回答した方の理由では「事故に遭遇したことがない」が最も多くみられた。
- しかし、利用頻度が高い利用者(週2回以上)に絞ると約6割が『そう思う』『ややそう思う』と回答し、渋滞や大型車通行による事故の危険性を指摘。
- また現況データより、現道(国道10号大分～犬飼)の死傷事故率が県内直轄国道平均の約1.4倍と高いことを確認。
- 以上より、「暮らし(事故)」を含む政策目標を効率的かつ効果的に実現するため道路整備を実施。

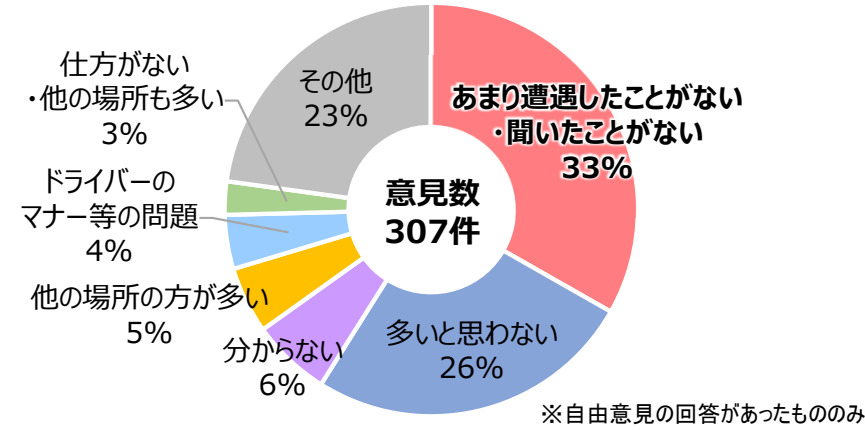
<課題③-2「交通事故が多い区間だと感じる」の課題認識>



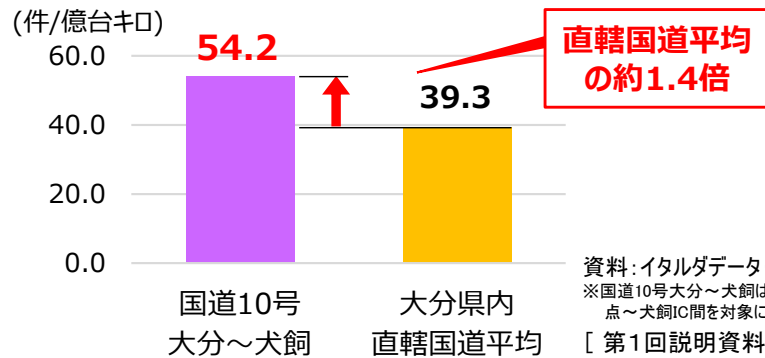
※小数点以下の処理により合計値と合わない場合がある(N=4,617 N' = 無回答を除く)

- 『そう思う』『ややそう思う』の意見(抜粋)
- 主要な道路が一本しかなく交通量が多いので必然と事故が多い。
 - 大型車も多く大事故になる。
 - 渋滞が原因で無理な割り込みや前方不注意等による事故が多い。
 - 国道10号白滝橋北交差点での交通事故が多く見られる。
 - 1カ所交通事故がある度、何キロも渋滞。始業に間に合わないスタッフもいる。

▼『あまりそう思わない』『そう思わない』の理由



▼死傷事故率の比較



4-2. 政策目標の設定<対策案の検討>

■政策目標の設定

○地域の現状と課題や将来像等を踏まえ、5つの政策目標を設定し、これらの目標を達成するための対策案を検討

- 地域の現状と課題
- 道路・交通の現状と課題
- 地域の将来像



政策目標

- ①速達性・定時性・アクセス性の向上による産業活動の支援
- ②災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの構築
- ③速達性・定時性・安全性・走行性の確保による生活利便性の向上
- ④速達性・走行性の向上による医療活動の支援
- ⑤広域周遊道路ネットワークの確保による観光振興の支援

■対策案の検討

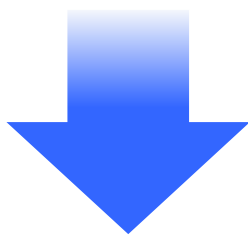
- 【産業】**
○大分臨海部の産業・物流拠点への移動時間の短縮、定時性の向上、アクセス性の向上による産業活動の支援
- 【防災】**
○災害時の代替路を確保し、信頼性の高い道路ネットワークを構築
- 【暮らし】**
○物流交通と生活交通の分離により現道の速達性・定時性、安全性を確保し、生活利便性を向上
- 【医療】**
○救急医療施設への速達性、走行性の向上による救急医療活動の支援
- 【観光】**
○観光地間の周遊を促す道路ネットワークの構築による観光振興の支援



基本コンセプト: 災害時に機能する信頼性の高いネットワークを構築するとともに、速達性・定時性・安全性・走行性の向上を図り、産業活動や生活利便性の向上、救急医療活動、観光振興の支援を目指す。

■対策案を検討する上でのその他の配慮事項

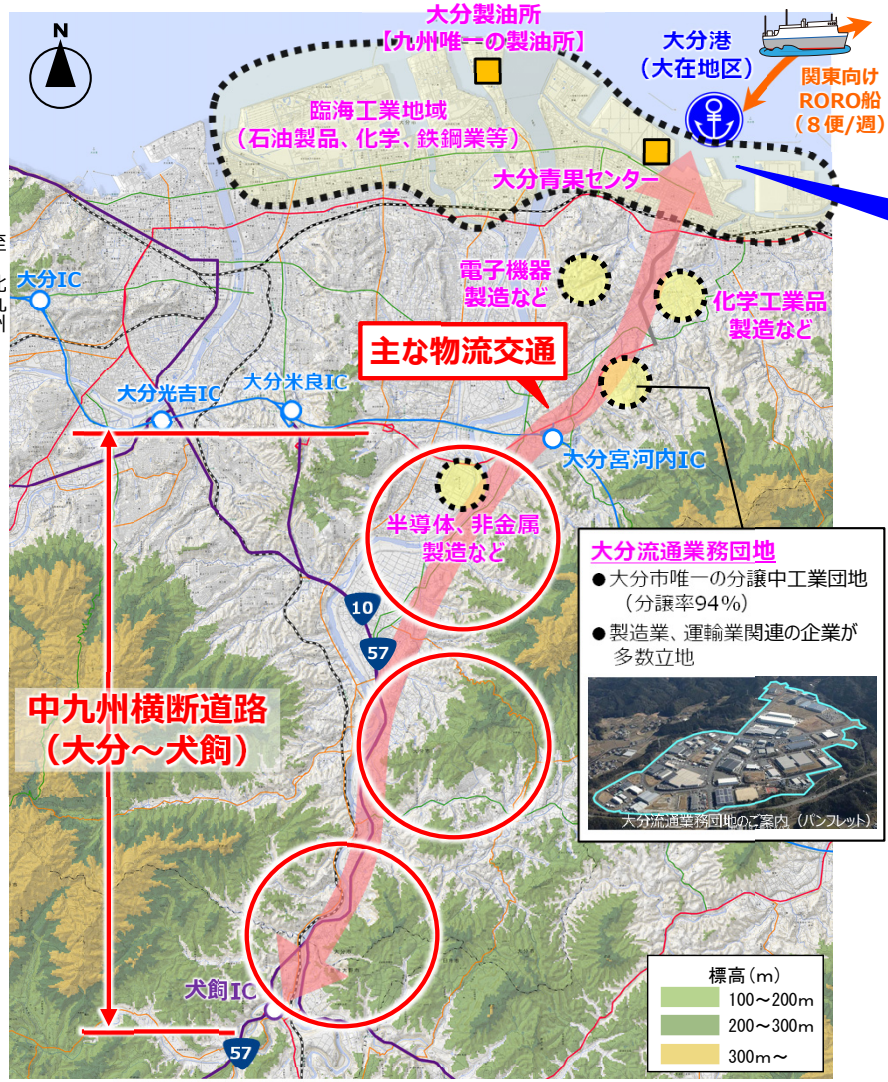
- 【生活環境・自然環境・景観の保全と調和】
- 【沿道利用・集落等への配慮】
- 【段階的な整備効果】
- 【施工中の影響】
- 【経済性への配慮】



既存の道路ストック活用や別線整備等の対策案を検討

4-3. 複数案の設定<起点について>

○産業・物流拠点(大分港大在地区、大分青果センター、九州唯一の製油所、流通業務団地等)は宮河内方面へ集積している。また、港湾整備、RORO船を活用したモーダルミックスも推進されており、今後も大在港の重要性・拠点性が高まる見込み。
 ○第1回意見聴取等においても、産業・物流面での利活用の観点から宮河内方面への接続を希望する声を確認されている。
 ⇒物流ネットワークの構築が可能である大分宮河内ICを起点とし、複数案の検討・設定を行う。



大分港(大在地区)の整備

- 九州発の関東方面向けRORO船で最短の航行時間で、便数も最多
- 「物の流れの基幹拠点」として、輸送ターミナル整備を実施中(R2年度～R11年度)

〈港湾整備事業の概要〉

写真出典：大分県HP

農産物の共同輸送・モーダルミックス等の取組み(大分青果センター)

- 集約物流拠点「ストックポイント」を設置し、青果物の集積、共同輸送、RORO船航路等を活用した大規模モーダルシフトを推進
- RORO船就航先の「清水港(静岡県)」は「特定農林水産物・食品輸出促進港湾」として農産物等の輸出促進を図る

ストックポイント：大分青果センター

- JA全農のストックポイントとしては九州地方初
- 低温管理が可能な集出荷・冷蔵拠点としてR1.6に開所し、コールドチェーン化を実現

■地域の声(第1回意見聴取等より)

沿道自治体の声

- ◎大分港大在地区は物流の拠点であり、今後の物流戦略を推進するためにも大分宮河内ICとの接続が重要。工場や物流施設が集中している大分宮河内IC周辺の渋滞緩和にもつながる。
- ◎農産物物流の中継基地である大在の青果センターへの輸送において、定時性や品質保持のため高規格道路による円滑化が望まれる。

地域住民の声

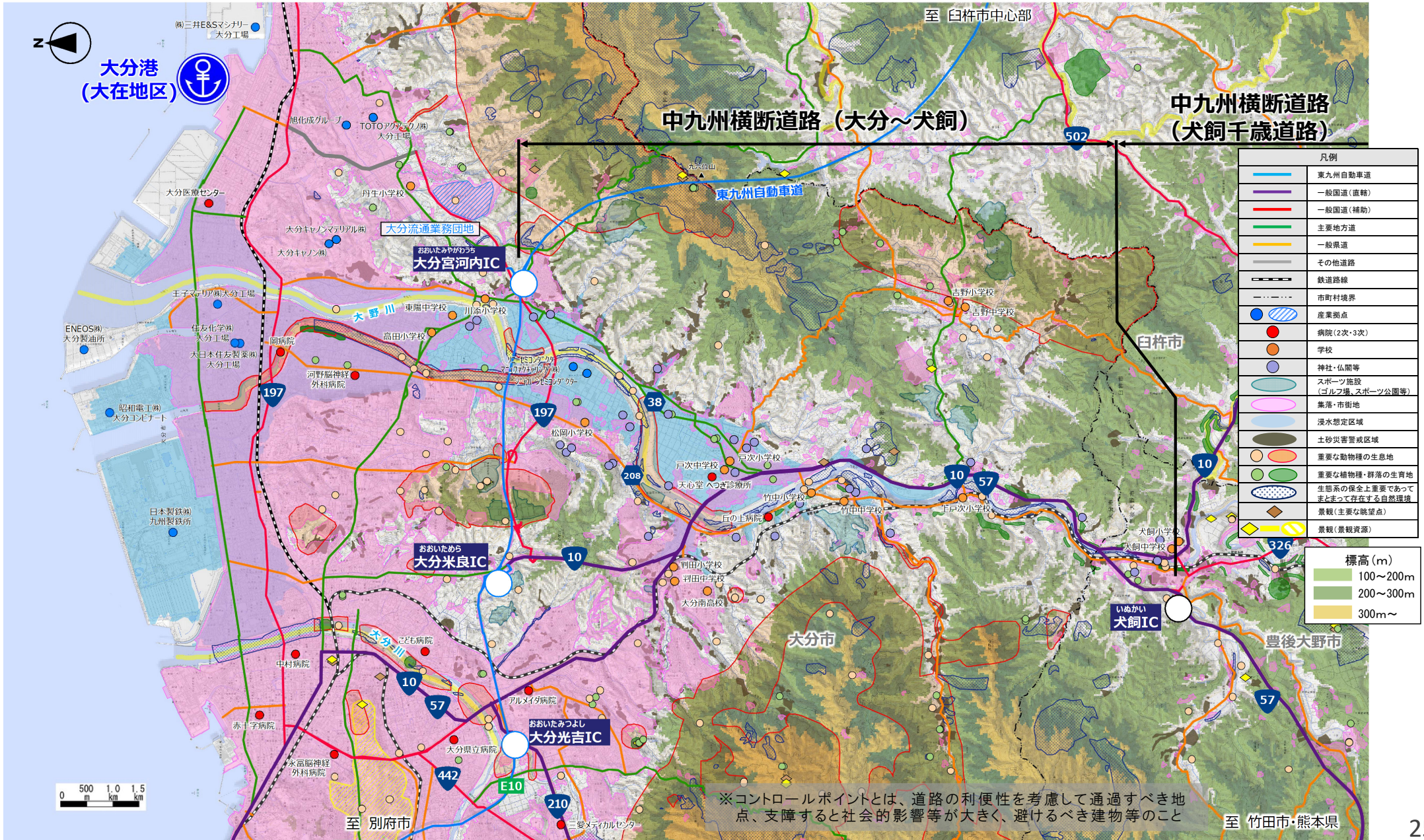
- ◎製造業が立地する宮河内IC付近へのアクセス、大在地区へのアクセスは大事。定時性の確保は産業発展につながる。
- ◎多様なルートがあった方が良いので大分宮河内ICへのアクセスが望ましい。米良方面だと既存の国道10号とかぶる。

団体・企業の声




- ◎企業活動の面、物流面からみると、宮河内付近接続だと非常に助かる。
- ◎物流拠点の利便性が向上することで企業誘致、雇用創出にもつながる。

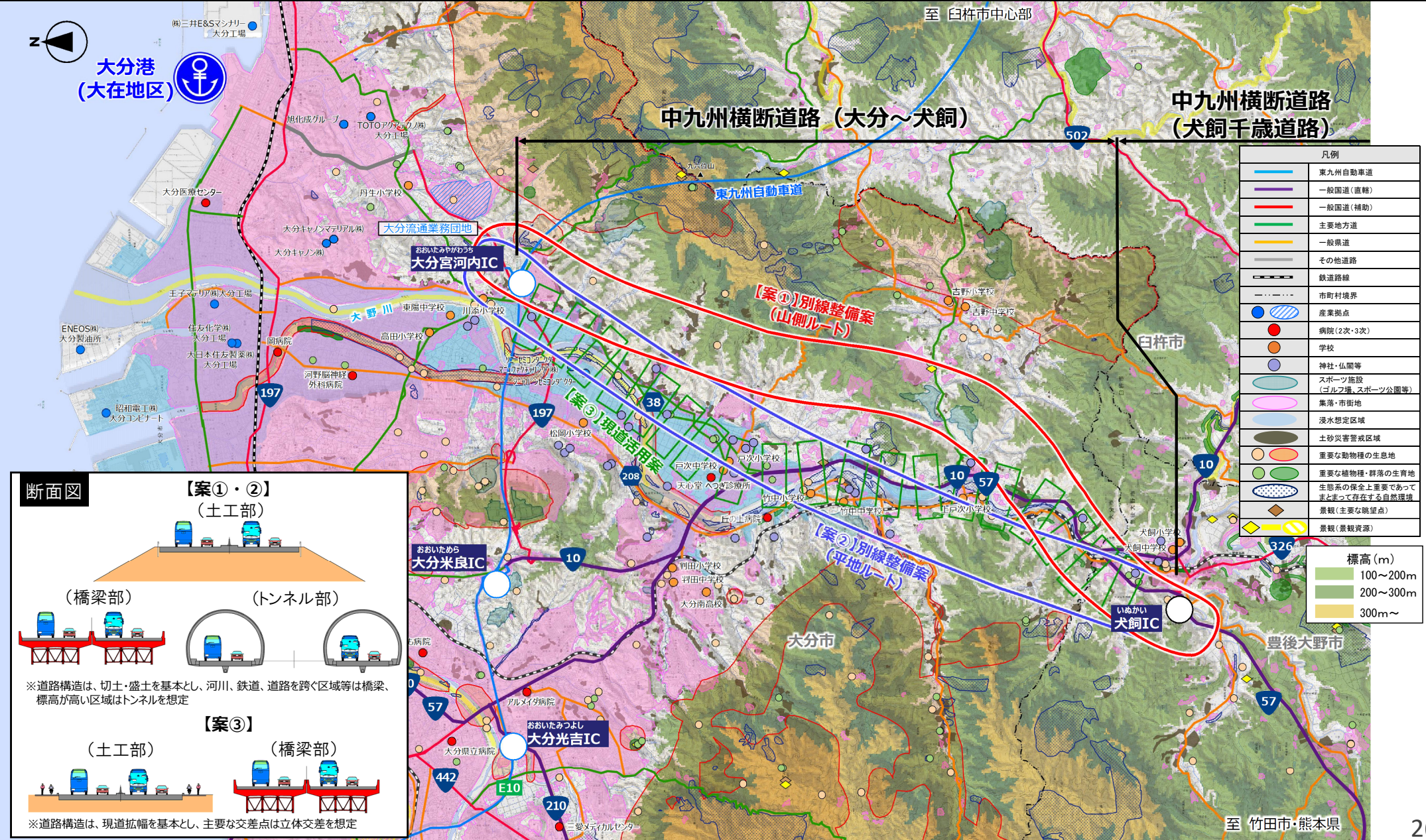
4-3. 複数案の設定<ルート帯選定にあたってのコントロールポイント>

○大分～犬飼間には、浸水想定区域等の配慮すべき箇所や、病院、産業施設等のコントロールポイントが存在。



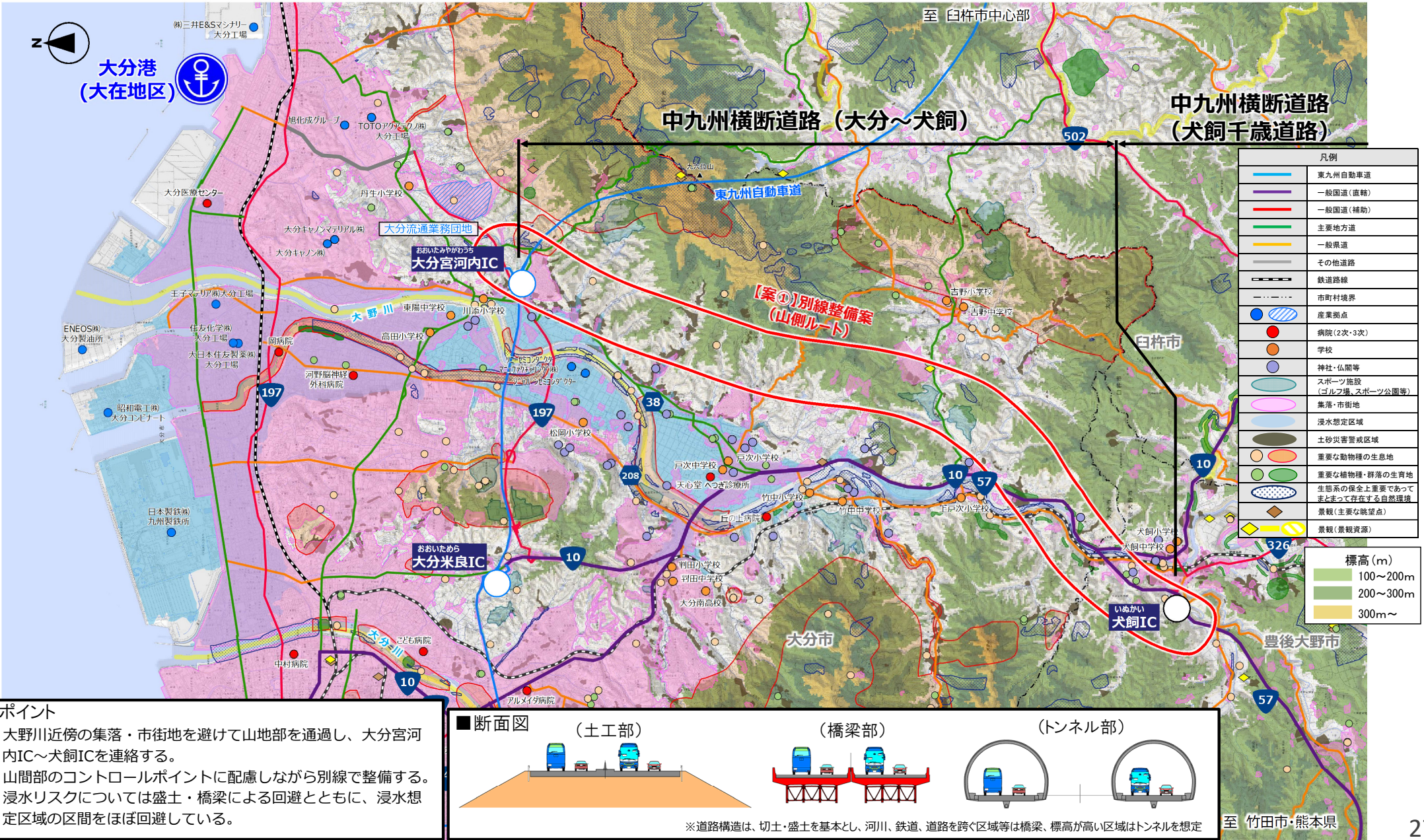
4-4. 複数案の設定<ルート帯案の概要>

-  【案①】別線整備案(山側ルート): 山間部に沿って集落・市街地・浸水想定区域を可能な限り回避する別線整備案
-  【案②】別線整備案(平地ルート): 平地部の集落・市街地・浸水想定区域を通過するが、起終点間を最短で結ぶ別線整備案
-  【案③】現道(国道10号・57号・県道38号)活用案: 国道10号・57号・県道38号の現道拡幅や交差点立体化等を行う案



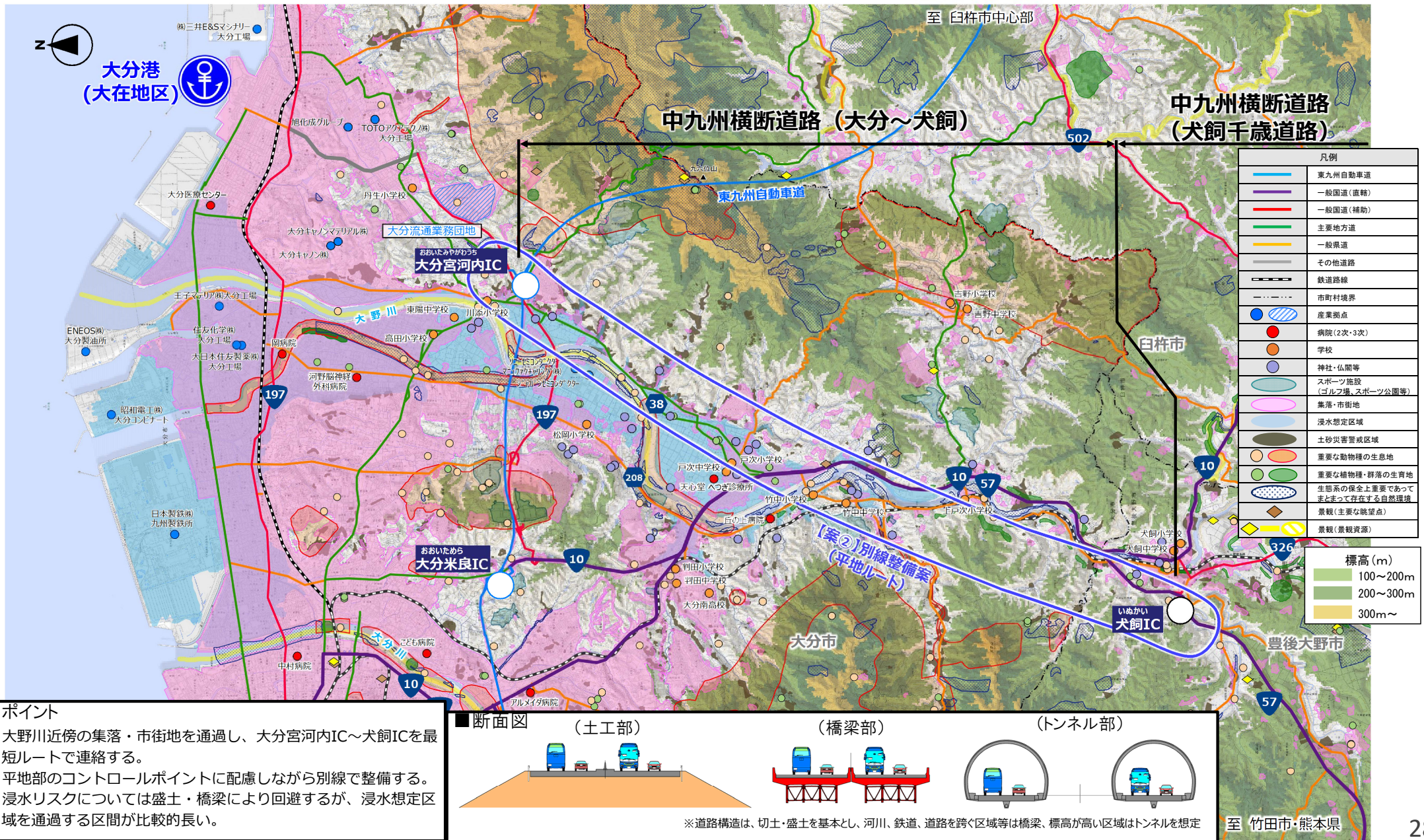
4-4. 複数案の設定<ルート帯案の概要> 【案①】別線整備案(山側ルート)

○山間部に沿って集落・市街地・浸水想定区域を可能な限り回避する別線整備案



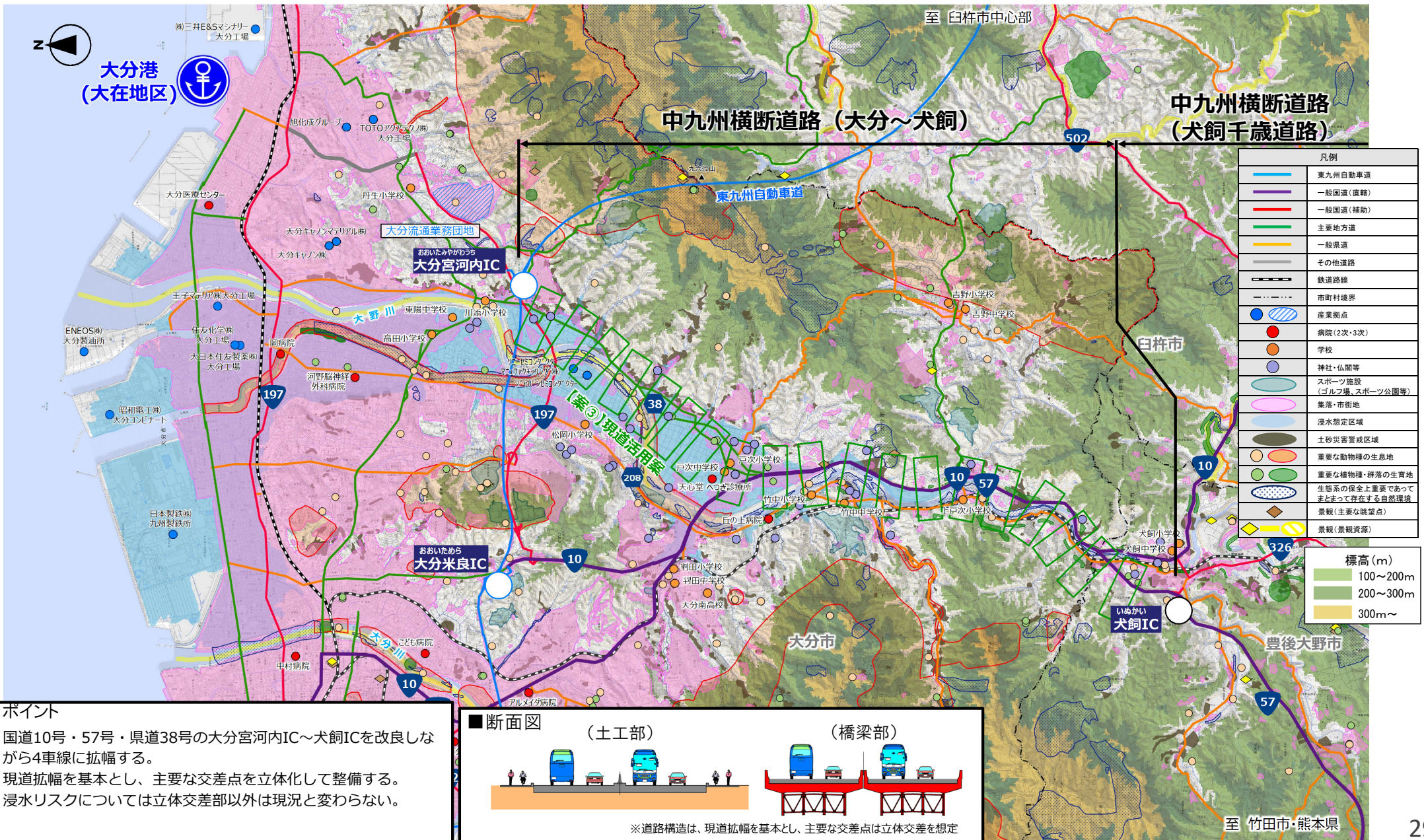
4-4. 複数案の設定<ルート帯案の概要> 【案②】別線整備案(平地ルート)

○平地部の集落・市街地・浸水想定区域を通過するが、起終点を最短で結ぶ別線整備案



4-4. 複数案の設定<ルート帯案の概要> 【案③】現道(国道10号・57号・県道38号)活用案

○国道10号・57号・県道38号の現道拡幅や交差点立体化等を行う案



4-5. 複数案の設定<ルート帯案の比較評価>

評価項目		【案①】別線整備案（山側ルート）	【案②】別線整備案（平地ルート）	【案③】現道（国道10号・57号・県道38号）活用案		
項目	評価指標	山間部に沿って集落・市街地・浸水想定区域を可能な限り回避する別線整備案	平地部の集落・市街地・浸水想定区域を通過するが、起終点間を最短で結ぶ別線整備案	国道10号・57号・県道38号の現道幅や交差点立体化等を行う案		
		延長 約18km 自動車専用道路タイプ（設計速度:80km/h）	延長 約17km 自動車専用道路タイプ（設計速度:80km/h）	延長 約18km 一般道路タイプ（設計速度:60km/h）		
政策目標	産業	① 大分市内の産業・物流拠点※1から熊本市までの移動時間	・大分市内の産業・物流拠点※1から熊本市までの移動時間の短縮が図られる	・大分市内の産業・物流拠点※1から熊本市までの移動時間の短縮が図られるが、案①、案②より劣る		
	防災	② 災害時に機能する代替路の確保	・別線整備により代替路が確保される	・別線整備により代替路が確保される	・現道利用のため代替路が確保されない	
		③ 浸水に関する被災リスク	・浸水想定区域をほぼ回避するルートであるため、道路損傷による通行規制が発生する可能性が最も低い	・浸水想定区域を通過する区間が案①より長い場合、道路損傷による通行規制が発生する可能性が案①より高い	・現道利用のため道路自体が浸水する恐れがあり、通行規制が発生する可能性が最も高い	
		④ 現道の安全性・走行性（生活交通・物流交通の分散）	・別線整備により生活交通と物流交通が分散し、交通混雑の緩和が図られるため、走行性・安全性向上が見込まれる	・別線整備により生活交通と物流交通が分散し、交通混雑の緩和が図られるため、走行性・安全性向上が見込まれる	・主要交差点の立体化等により混雑緩和が図られるが、現道の生活交通と物流交通の混在は残る	
	暮らし	⑤ 三次医療施設※2への走行性	・別線整備により現道の信号交差点等を回避できるため、搬送時の加減速の頻度が減少し、走行性向上が見込まれる	・別線整備により現道の信号交差点等を回避できるため、搬送時の加減速の頻度が減少し、走行性向上が見込まれる	・搬送時に信号交差点等において加減速が発生するため、走行性の面で案①、案②より劣る	
	医療	⑥ 救急搬送時（三次医療施設※2）の速達性の向上（30分圏域人口の拡大）	・大分市内の三次医療施設※230分圏域外地域の近傍を通過するルートであるため、30分圏域人口の拡大が最も見込まれる	・大分市内の三次医療施設※230分圏域外地域の近傍を通過しないルートであるため、30分圏域人口の拡大は案①より劣る	・大分市内の三次医療施設※230分圏域外地域の近傍を通過しないルートであるため、30分圏域人口の拡大は案①より劣る	
	観光	⑦ 観光地※3への移動時間	・別府・佐賀関方面から豊後大野市・竹田市の観光施設までの移動時間の短縮が図られる	・別府・佐賀関方面から豊後大野市・竹田市の観光施設までの移動時間の短縮が図られる	・別府・佐賀関方面から豊後大野市・竹田市の観光施設までの移動時間の短縮が図られるが、案①、案②より効果は小さい	
	道路整備による影響	生活環境※4	⑧ 大気質、騒音への影響	・集落・市街地等を通過するため、生活環境に影響を与える可能性があるが、影響の程度は最も小さいと考えられる	・集落・市街地等を通過するため、生活環境に影響を与える可能性があり、影響の程度は案①より大きいと考えられる	・集落・市街地等を通過するため、生活環境に影響を与える可能性があり、影響の程度は案①より大きいと考えられる
		自然環境※4	⑨ 動植物の生息・生育地、生態系等への影響	・自然環境を考慮すべき箇所を通過するため、自然環境に影響を与える可能性がある	・自然環境を考慮すべき箇所を通過するため、自然環境に影響を与える可能性がある	・自然環境を考慮すべき箇所を通過するため、自然環境に影響を与える可能性がある
		景観※4	⑩ 景観資源・主要な眺望点への影響	・景観資源を一部通過するため、景観に影響を与える可能性がある	・景観資源・主要な眺望点を一部通過するため、景観に影響を与える可能性がある	・景観資源・主要な眺望点を一部通過するため、景観に影響を与える可能性がある
集落等への影響		⑪ 移転が必要となる家屋・施設等の数	・山間部を主に通過するため、移転等は少ない	・集落・市街地を通過するため、学校、家屋、商業施設、神社・仏閣などが多く存在し、移転等が多い	・集落・市街地を通過するため、学校、家屋、商業施設、神社・仏閣などが多く存在し、移転等が多い	
沿道利用		⑫ 周辺からのアクセス利用	・沿道の集落・施設からの利用はインターチェンジに限定される	・沿道の集落・施設からの利用はインターチェンジに限定される	・沿道の集落・施設からのアクセス性は高い	
施工中の影響		⑬ 現道交通や生活道路等への影響	・別線整備のため、現道交通への影響は小さい ・山間部を主に通過するため、生活道路内の交通に対して影響を与える可能性は案②、案③より低い	・別線整備のため、現道交通への影響は小さい ・集落・市街地を通過するため、生活道路内の交通に対して影響を与える可能性が高い	・現道の切り直し等により現道交通への影響が大きい ・集落・市街地を通過するため、生活道路内の交通に対して影響を与える可能性が高い	
段階的な効果の発現	⑭ 発現の時期	・部分的な開通が可能のため、段階的に効果発現が見込まれる	・部分的な開通が可能のため、段階的に効果発現が見込まれる	・現道を改良するため、開通したところから効果発現が見込まれる		
コスト	⑮ 整備に要する費用	約2,200～2,400億円	約2,200～2,400億円	約1,200～1,400億円		

※1…産業・物流拠点:大分港(大分地区) ※2…三次医療施設:アルメイダ病院 ※3…観光地:岡城址(竹田市) ※4…自動車の走行や道路の存在に伴い影響を及ぼす可能性のある事項を整理

5. 第2回意見聴取方法(案)

5-1. 第2回意見聴取(案)の概要

■政策目標の設定

○第2回意見聴取は、地域がより重視する政策目標や配慮事項に関して評価指標等を用いて意見を伺い、ルート帯やインターチェンジの接続位置等、対応方針(案)の検討の参考とする。

○アンケート設問の設定(抜粋)

<政策目標>

【産業】

①速達性・定時性・アクセス性の向上による産業活動の支援



<アンケートにおける質問事項>

(比較ルート帯案(複数案)に対する意見)

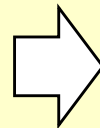
問：大分市臨海部の産業・物流拠点までの移動時間が短く、輸送時間が読めること

(接続位置に対する意見)

問：周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと

【防災】

②災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの構築



(比較ルート帯案(複数案)に対する意見)

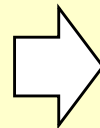
問：災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること
問：洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと

(接続位置に対する意見)

問：災害時に安全かつ円滑にアクセスできること

<配慮事項>

【生活環境・自然環境・景観の保全と調和】



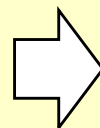
<アンケートにおける質問事項>

問：生活環境(大気質・騒音など)への影響が小さいこと

問：自然環境(動物・植物など)への影響が小さいこと

問：景観(景観資源など)への影響が小さいこと

【沿道利用・集落等への影響】



問：沿道からの利用が便利なこと

問：移転する家屋・施設が少ないこと

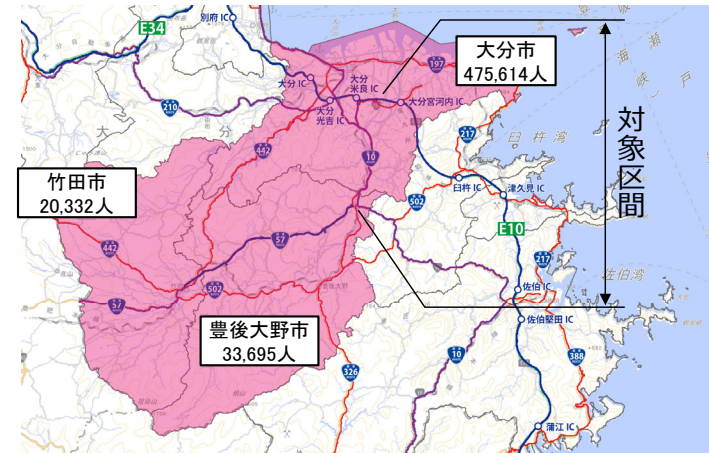
5-2. 第2回意見聴取方法について

■意見聴取の方法

○意見聴取は、沿道自治体、団体および企業、沿道住民へのアンケートに加え、オープンハウス、留置きを実施予定。

意見聴取の対象

- ※1 ヒアリングは、自治体および企業等へ対面方式等での意見聴取。
- ※2 オープンハウスは、各自治体市役所等での説明。アンケート票による意見聴取。オープンハウスの周知は市報などで広報。
- ※3 アンケートは、地域住民から対象者を無作為に抽出し、アンケート用紙を配布し意見聴取。
- ※4 WEBでのアンケート回答も可能とする。



▲アンケート対象範囲

対象者		
ヒアリング ・ アンケート ※1、※4	【沿道自治体】大分県・大分市・豊後大野市・竹田市・各団体などへの意見聴取	
	沿道自治体: 大分県・大分市・豊後大野市・竹田市	4自治体
	各団体等: トラック協会、バス協会、消防本部、農業協同組合、漁業協同組合、警察署、観光協会、商工会議所、医療機関、医師会 等	20団体程度
	【団体・企業等】大分市・豊後大野市・竹田市・熊本県などの関係企業への意見聴取	
	各企業: 製造業、運輸・郵便業、卸売・小売業、宿泊・飲食サービス業、医療・福祉 等	主要100社程度
オープンハウス (ヒアリング) ※2	【地域住民】沿道の大分市・豊後大野市・竹田市の市役所・支所等にオープンハウスを設置	
	大分市: 大分市役所本庁舎、大分市役所大南支所、パークプレイス大分 豊後大野市: 豊後大野市役所 竹田市: 竹田市役所	5箇所程度
アンケート ※3、※4	【地域住民】沿道の大分市・豊後大野市・竹田市の地域住民から対象者を無作為に抽出し、アンケート用紙を配布し意見聴取	
	大分市 (人口: 475,614人、世帯数: 209,539世帯)	約6,400部(抽出)
	豊後大野市(人口: 33,695人、世帯数: 13,780世帯) 竹田市 (人口: 20,332人、世帯数: 8,699世帯)	約500部(抽出) 約300部(抽出)
留置き	【道路利用者等】道の駅等にアンケート用紙とアンケート回収ボックスを設置し意見聴取	
	豊後大野市: 道の駅「あさじ」、道の駅「原尻の滝」、道の駅「おおの」、道の駅「みえ」、道の駅「きよかわ」 竹田市: 道の駅「竹田」、道の駅「すごう」 等	7箇所程度

■住民アンケート(案)

①調査概要

○アンケート調査の趣旨やアンケートの対象者、今後の手続きの流れ等の説明

中九州横断道路(大分～犬飼)の道路計画に関する第2回アンケートにご協力をお願いいたします

中九州横断道路は大分市を起点として豊後大野市・竹田市などを經由し熊本市に至る延長約120kmの道路です。

本調査は、中九州横断道路(大分～犬飼)の3つの『ルート帯案』^{※1}のうち、最適なルート帯やインターチェンジの位置等の検討に必要な「重視すべき事項」^{※2}についてご意見を頂くことを目的としています。お聞きした「重視すべき事項」は、各ルート帯における政策目標等の達成状況とあわせて最適なルート帯等を検討する際の参考とします^{※3}。

頂いた回答は、アンケート以外の目的で使用することはありませんので、率直なご意見をお聞かせください。皆様のご協力をお願いいたします。

※1:『ルート帯案』とは、路線を計画する概ねの幅を示す案。○ページに示す3つのルート帯は○年○月に開催された九州地方小委員会において承認されたもの。

※2:『重視すべき事項』とは、最適なルート帯およびインターチェンジ位置等を決定するための評価項目。

※3:最終的なルート帯は、九州地方小委員会の意見を踏まえ決定します。

〔本事業は、環境影響評価法(平成9年法律第81号)に基づく計画段階環境配慮書(配慮書)の対象事業となることがあり、この意見聴取は環境影響評価法に基づく配慮書の案についての意見聴取の手続きを兼ねています。〕

■アンケート対象者

本アンケートは、大分市・豊後大野市・竹田市にお住まいの方から無作為に抽出し配布しています。

○本アンケートは、配布させて頂いた世帯のご家族の方を対象と考えております。お手数ですが、アンケート回答へのご協力をお願いいたします。

○幅広い年齢層の方からのご意見をお伺いしたい為、ご家族皆様へのご協力をお願いいたく、「アンケート回答用 返信はがき」を4枚同封させて頂いております。(対象は18歳以上としております。ご家族構成にあわせて必要枚数をご利用ください。)

※なお、返信はがきが不足する場合は、お手数ですが、1ページの問い合わせ先までご連絡ください。

■回答の提出方法及び締切

回答は、次の方法のうちいずれか1つをお選びください。

【方法1】同封しています「返信はがき」にご記入頂き、
令和○年○月○日(○)までに、切手を貼らず郵便ポストへご投函をお願いいたします。

【方法2】インターネット接続環境のあるスマートフォンまたはパソコンより、
下記A、Bいずれかの方法でアンケートサイトにアクセスし、
令和○年○月○日(○)までに、回答をお願いいたします。

A 下記URLをアドレスバーに入力

URL

B 右記QRコードからアクセス

QRコード

中九州横断道路(大分～犬飼)の対象区間位置図

【広域図】



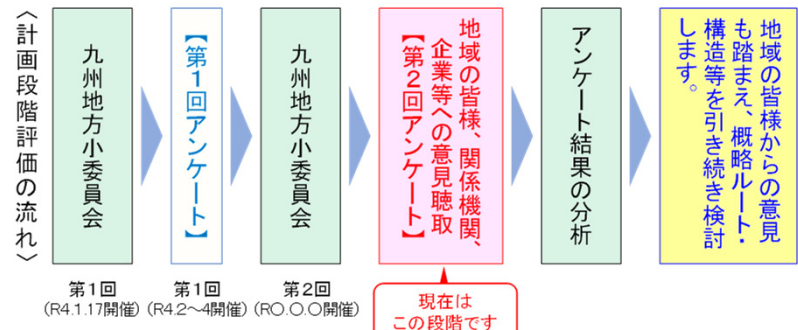
【対象区間(評価対象区間)】



アンケートは「計画段階評価」審議の参考意見となります。

国土交通省では、道路事業の透明性・効率性を高めるため、計画段階評価の取組を導入しています。

これは、道路の整備方針について地域の声(地域の皆様、道路利用者、関係団体等)を聞きながら、第三者委員会によって審議するものです。



■九州地方小委員会

九州地方小委員会は、公共事業の効率性や透明性の一層の向上を図るため、学識経験者など第三者から構成される委員会です。

なお、会議資料は、国土交通省九州地方整備局のホームページでご覧いただけます。

■住民アンケート(案)

②アンケート調査票

○政策目標や配慮事項、アンケートの質問内容等の説明

ルート帯を検討するうえで重視すべき事項

産業

- 1 大分市臨海部の産業・物流拠点までの移動時間が短く、輸送時間が読めること

暮らし

- 4 物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと



防災

- 2 災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること
- 3 洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと



道路整備による影響

- 8 生活環境(大気質・騒音など)への影響が小さいこと
- 9 自然環境(動物・植物など)への影響が小さいこと
- 10 景観(景観資源など)への影響が小さいこと
- 11 移転する家屋・施設が少ないこと
- 12 沿道からの利用が便利なこと
- 13 施工中の周辺交通などへの影響が小さいこと
- 14 段階的に開通でき、早期に整備効果が望めること
- 15 整備費用が安いこと

医療

- 5 大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと
- 6 大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること



観光

- 7 観光地への移動時間が短く、到着時間が読めること



インターチェンジの位置等を検討するうえで重視すべき事項

- 16 周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと
- 17 集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること
- 18 集落に近接し、大分市内の医療施設への移動時間が短縮すること
- 19 観光資源・観光施設に近接して早く行けること
- 20 災害時に安全かつ円滑にアクセスできること

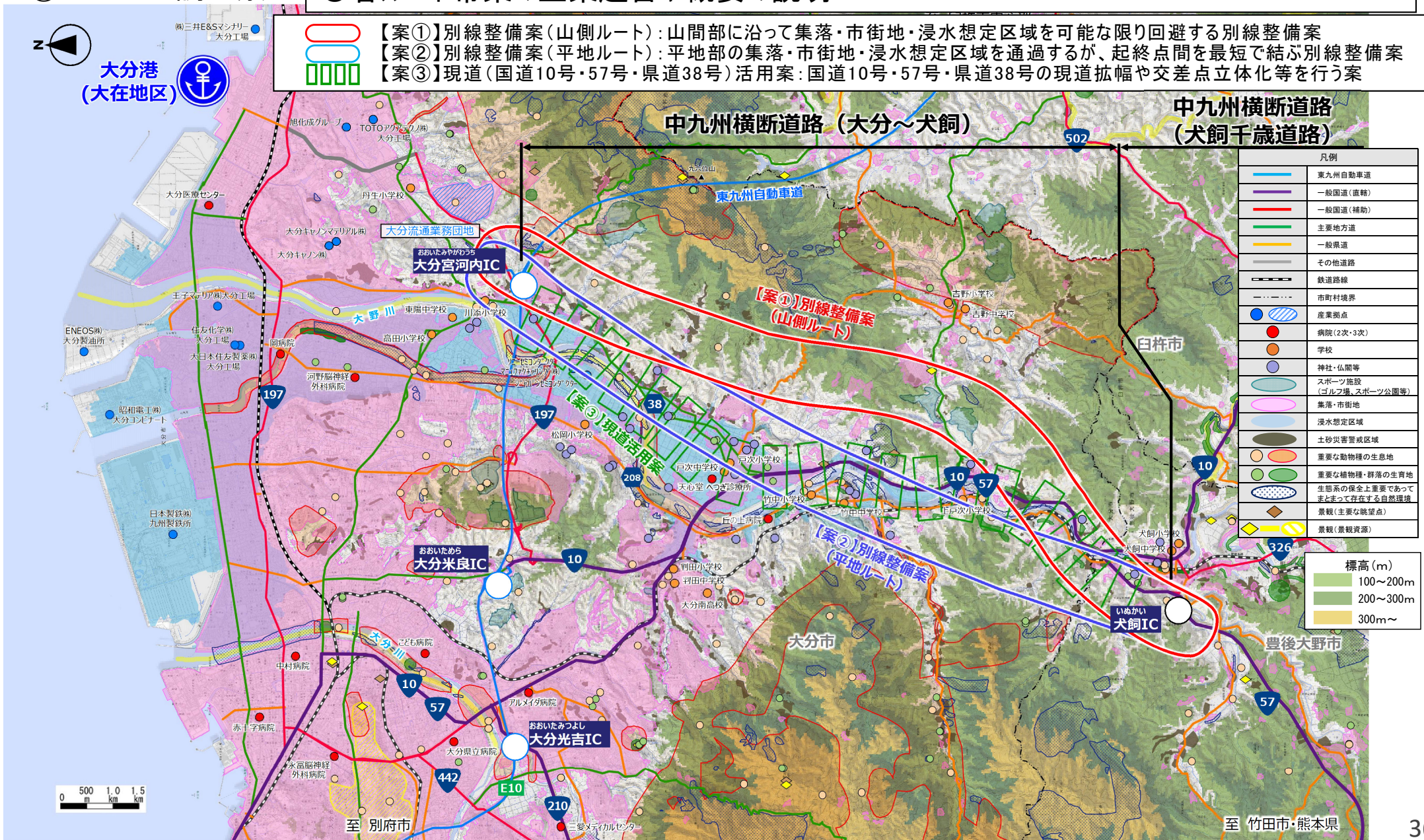


■住民アンケート(案)

②アンケート調査票

○各ルート帯案の立案趣旨や概要の説明

- 【案①】別線整備案(山側ルート): 山間部に沿って集落・市街地・浸水想定区域を可能な限り回避する別線整備案
- 【案②】別線整備案(平地ルート): 平地部の集落・市街地・浸水想定区域を通過するが、起終点間を最短で結ぶ別線整備案
- 【案③】現道(国道10号・57号・県道38号)活用案: 国道10号・57号・県道38号の現道拡幅や交差点立体化等を行う案



凡例	
—	東九州自動車道
—	一般国道(直轄)
—	一般国道(補助)
—	主要地方道
—	一般県道
—	その他道路
- - -	鉄道路線
— —	市町村境界
●	産業拠点
●	病院(2次・3次)
●	学校
●	神社・仏閣等
●	スポーツ施設 (ゴルフ場、スポーツ公園等)
■	集落・市街地
■	浸水想定区域
■	土砂災害警戒区域
○	重要な動物種の生息地
○	重要な植物種・群落の生育地
○	生態系の保全上重要であって 残って存在する自然環境
◇	景観(主要な眺望点)
◇	景観(景観資源)

標高(m)	
■	100~200m
■	200~300m
■	300m~

■住民アンケート(案)

②アンケート調査票

○各ルート帯案のポイントや道路構造の説明

	ルート帯案のポイント	ルート帯案の道路構造
<p style="text-align: center; color: white; font-weight: bold;">案①</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大野川近傍の集落・市街地を避けて山地部を通過し、大分宮河内IC～犬飼ICを連絡する。 山間部のコントロールポイントに配慮しながら別線で整備する。 浸水リスクについては盛土・橋梁による回避とともに、浸水想定区域の区間をほぼ回避している。 	<p>【横断図】</p> <p>※道路構造は、切土・盛土を基本とし、河川、鉄道、道路を跨ぐ区域等は橋梁、標高が高い区域はトンネルを想定</p>
<p style="text-align: center; color: white; font-weight: bold;">案②</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大野川近傍の集落・市街地を通過し、大分宮河内IC～犬飼ICを最短ルートで連絡する。 平地部のコントロールポイントに配慮しながら別線で整備する。 浸水リスクについては盛土・橋梁により回避するが、浸水想定区域を通過する区間が比較的長い。 	<p>【横断図】</p> <p>※道路構造は、切土・盛土を基本とし、河川、鉄道、道路を跨ぐ区域等は橋梁、標高が高い区域はトンネルを想定</p>
<p style="text-align: center; color: white; font-weight: bold;">案③</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国道10号・57号・県道38号の大分宮河内IC～犬飼ICを改良しながら4車線に拡幅する。 現道拡幅を基本とし、主要な交差点を立体化して整備する。 浸水リスクについては立体交差部以外は現況と変わらない。 	<p>【横断図】</p> <p>※道路構造は、現道拡幅を基本とし、主要な交差点は立体交差を想定</p>

■住民アンケート(案)

②アンケート調査票

○各ルート帯案の比較表の説明

評価項目		【案①】別線整備案(山側ルート)	【案②】別線整備案(平地ルート)	【案③】現道(国道10号・57号・県道38号)活用案	
項目	評価指標	山間部に沿って集落・市街地・浸水想定区域を可能な限り回避する別線整備案	平地部の集落・市街地・浸水想定区域を通過するが、起終点間を最短で結ぶ別線整備案	国道10号・57号・県道38号の現道拡幅や交差点立体化等を行う案	
		延長 約18km 自動車専用道路タイプ(設計速度:80km/h)	延長 約17km 自動車専用道路タイプ(設計速度:80km/h)	延長 約18km 一般道路タイプ(設計速度:60km/h)	
政策目標	産業	① 大分市内の産業・物流拠点※1から熊本市までの移動時間	・大分市内の産業・物流拠点※1から熊本市までの移動時間の短縮が図られる	・大分市内の産業・物流拠点※1から熊本市までの移動時間の短縮が図られるが、案①、案②より劣る	
	防災	② 災害時に機能する代替路の確保	・別線整備により代替路が確保される	・別線整備により代替路が確保される	・現道利用のため代替路が確保されない
		③ 浸水に関する被災リスク	・浸水想定区域をほぼ回避するルートであるため、道路損傷による通行規制が発生する可能性が最も低い	・浸水想定区域を通過する区間が案①より長い場合、道路損傷による通行規制が発生する可能性が案①より高い	・現道利用のため道路自体が浸水する恐れがあり、通行規制が発生する可能性が最も高い
	暮らし	④ 現道の安全性・走行性(生活交通・物流交通の分散)	・別線整備により生活交通と物流交通が分散し、交通混雑の緩和が図られるため、走行性・安全性向上が見込まれる	・別線整備により生活交通と物流交通が分散し、交通混雑の緩和が図られるため、走行性・安全性向上が見込まれる	・主要交差点の立体化等により混雑緩和が図られるが、現道の生活交通と物流交通の混在は残る
	医療	⑤ 三次医療施設※2への走行性	・別線整備により現道の信号交差点等を回避できるため、搬送時の加減速の頻度が減少し、走行性向上が見込まれる	・別線整備により現道の信号交差点等を回避できるため、搬送時の加減速の頻度が減少し、走行性向上が見込まれる	・搬送時に信号交差点等において加減速が発生するため、走行性の面で案①、案②より劣る
		⑥ 救急搬送時(三次医療施設※2)の速達性の向上(30分圏域人口の拡大)	・大分市内の三次医療施設※230分圏域外地域の近傍を通過するルートであるため、30分圏域人口の拡大が最も見込まれる	・大分市内の三次医療施設※230分圏域外地域の近傍を通過しないルートであるため、30分圏域人口の拡大は案①より劣る	・大分市内の三次医療施設※230分圏域外地域の近傍を通過しないルートであるため、30分圏域人口の拡大は案①より劣る
	観光	⑦ 観光地※3への移動時間	・別府・佐賀関方面から豊後大野市・竹田市の観光施設までの移動時間の短縮が図られる	・別府・佐賀関方面から豊後大野市・竹田市の観光施設までの移動時間の短縮が図られる	・別府・佐賀関方面から豊後大野市・竹田市の観光施設までの移動時間の短縮が図られるが、案①、案②より効果は小さい
道路整備による影響	生活環境※4	⑧ 大気質、騒音への影響	・集落・市街地等を通過するため、生活環境に影響を与える可能性があるが、影響の程度は最も小さいと考えられる	・集落・市街地等を通過するため、生活環境に影響を与える可能性があるが、影響の程度は案①より大きいと考えられる	
	自然環境※4	⑨ 動植物の生息・生育地、生態系等への影響	・自然環境を考慮すべき箇所を通過するため、自然環境に影響を与える可能性がある	・自然環境を考慮すべき箇所を通過するため、自然環境に影響を与える可能性がある	
	景観※4	⑩ 景観資源・主要な眺望点への影響	・景観資源を一部通過するため、景観に影響を与える可能性がある	・景観資源・主要な眺望点を一部通過するため、景観に影響を与える可能性がある	
	集落等への影響	⑪ 移転が必要となる家屋・施設等の数	・山間部を主に通過するため、移転等は少ない	・集落・市街地を通過するため、学校、家屋、商業施設、神社・仏閣などが多く存在し、移転等が多い	
	沿道利用	⑫ 周辺からのアクセス利用	・沿道の集落・施設からの利用はインターチェンジに限定される	・沿道の集落・施設からの利用はインターチェンジに限定される	
施工中の影響	⑬ 現道交通や生活道路等への影響	・別線整備のため、現道交通への影響は小さい ・山間部を主に通過するため、生活道路内の交通に対して影響を与える可能性は案②、案③より低い	・別線整備のため、現道交通への影響は小さい ・集落・市街地を通過するため、生活道路内の交通に対して影響を与える可能性が高い	・現道の切り直し等により現道交通への影響が大きい ・集落・市街地を通過するため、生活道路内の交通に対して影響を与える可能性が高い	
段階的な効果の発現	⑭ 発現の時期	・部分的な開通が可能のため、段階的に効果発現が見込まれる	・部分的な開通が可能のため、段階的に効果発現が見込まれる	・現道を改良するため、開通したところから効果発現が見込まれる	
コスト	⑮ 整備に要する費用	約2,200~2,400億円	約2,200~2,400億円	約1,200~1,400億円	

※1…産業・物流拠点:大分港(大在地区) ※2…三次医療施設:アルメイダ病院 ※3…観光地:岡城址(竹田市) ※4…自動車の走行や道路の存在に伴い影響を及ぼす可能性のある事項を整理

END